

男女共同参画に関する意識調査報告書

平成29年2月

下 郷 町

目 次

I	調査概要	1
II	調査結果からの考察	2
1	回答者属性	2
2	男女の地位に関する意識	6
3	家庭生活に関する意識	12
4	女性の社会進出に対する意識	19
5	地域・社会活動に対する意識	22
6	介護に対する意識	24
7	男女の人権に対する意識	27
8	男女共同参画の認知度	31
III	自由意見のまとめ	37
IV	調査票	40

I 調査概要

(1) 調査の目的

平成23年度策定「下郷町男女共同参画プラン」の10か年計画の後半期になることから、男女共同参画における施策の更なる推進及び今後実施する本町における男女共同参画施策を効果的に進めるための参考資料とするため、また、10か年計画終了後の第二次プランの策定のため本調査を実施した。

(2) 調査の実施

下郷町に住所がある、20歳以上の男女500名を無作為に抽出し、郵送によるアンケート調査を実施した。

対象者数	500人（町内の20歳以上の男女から無作為に抽出）
回答者数	241人
回収率	48.2%
調査期間	平成28年7月15日～8月5日
調査方法	郵送アンケート
調査項目	1 回答者属性（問1～10） 2 男女の地位に関する意識（問11） 3 家庭生活に関する意識（問12～16） 4 女性の社会進出に対する意識（問17～20） 5 地域・社会活動に対する意識（問21～23） 6 介護に対する意識（問24～27） 7 男女の人権に対する意識（問28～30） 8 男女共同参画の認知度（問31～33）

II 調査結果からの考察

1 回答者属性

問1 あなたの性別はどれにあたりますか。(○は1つだけ)

回答者数の比率は前回調査とほぼ同じ割合になっている。

回答者数：241

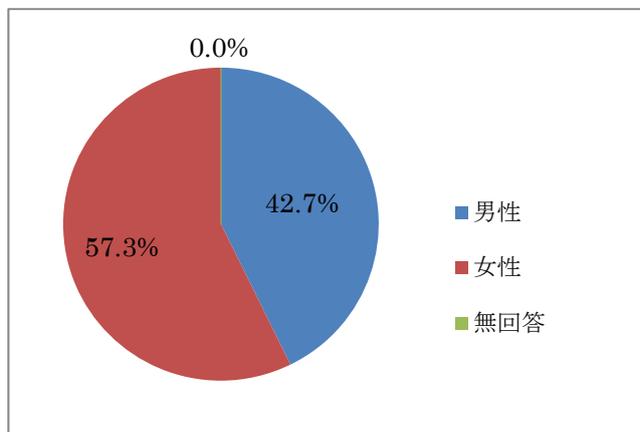
内訳 男性 : 103 (42.7%)
女性 : 138 (57.3%)
無回答 : 0 (0%)

下郷町の人口 (H28.7.1 現在)

男性 : 2,976 (49.0%)
女性 : 3,093 (51.0%)
計 : 6,069 (100%)

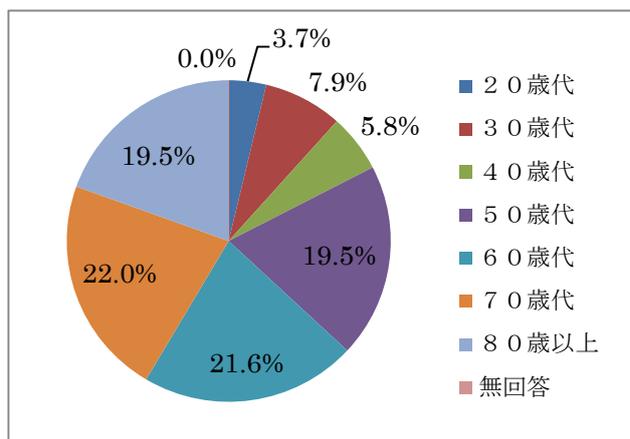
【参考】 前回調査

内訳 男性 : 43 (42.6%)
女性 : 58 (57.4%)
無回答 : 0 (0%)



問2 あなたの年齢はどれにあてはまりますか。(○は1つだけ)

回答者の年齢は、70歳代が22.0%で最も多く、次いで60歳代が21.6%、50歳代・80歳以上が19.5%と続いている。



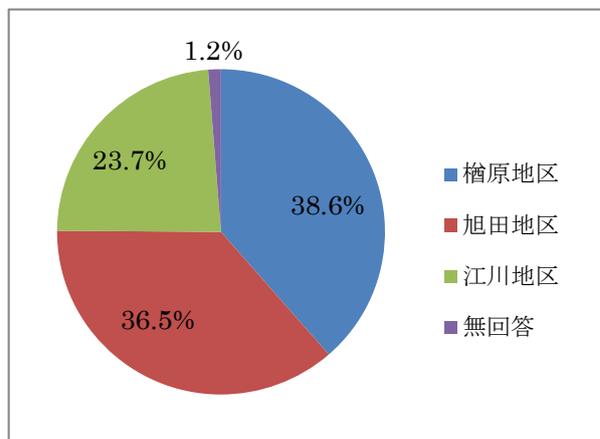
問3 あなたが現在お住まいの地区はどこですか。(○は1つだけ)

回答者の地区別割合は、檜原地区38.6%、旭田地区36.5%、江川地区23.7%となっている。

地区別人口比率は、檜原地区40.5%、旭田地区38.2%、江川地区21.3%となっており、回答者の地区別割合とほぼ同じである。

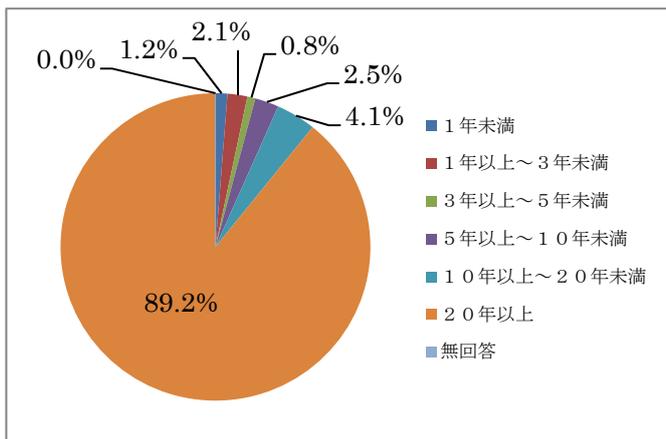
【参考】 地区別人口 (H28.7.1 現在)

檜原地区 : 2,457 (40.5%)
旭田地区 : 2,320 (38.2%)
江川地区 : 1,292 (21.3%)



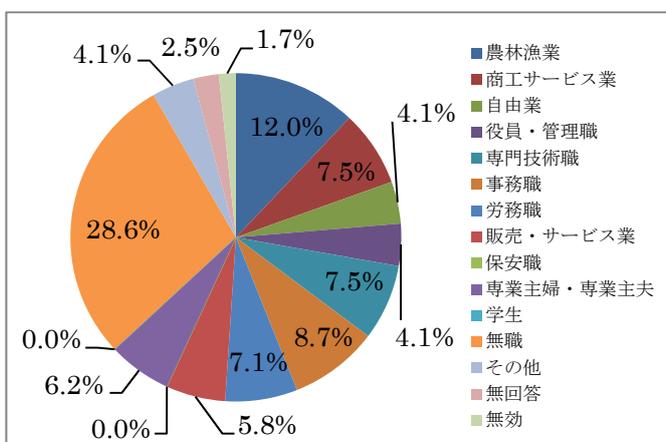
問4 あなたは下郷町にお住まいになって何年（通算）になりますか。（○は1つだけ）

20年以上が89.2%と8割以上を占めている。



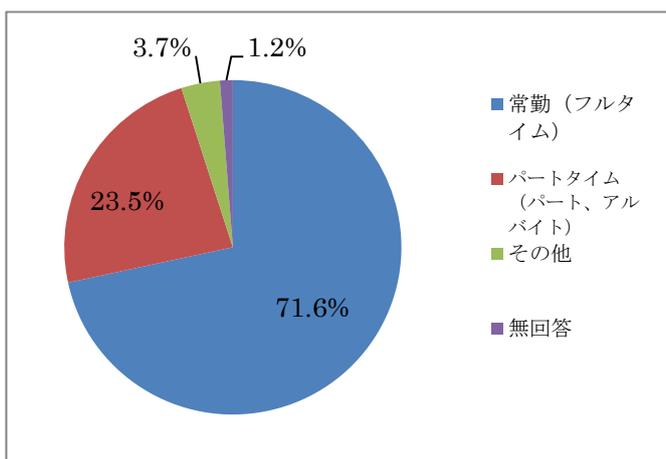
問5 あなたの職業を教えてください。（○は主なもの1つだけ）

無職が28.6%で最も多い。次いで農林漁業12.0%、事務職8.7%、商工サービス（自営業）、専門技術職が7.5%と続いている。



問6 この質問は 問5で「②勤めている」を選んだ方のみお答えください。それ以外の方は、問7へ お仕事は、次のいずれにあてはまりますか。（○は主なもの1つだけ）

問5で「②勤めていると」回答した81人中、常勤（フルタイム）が71.6%、パートタイム（パート、アルバイト）が23.5%、その他が3.7%、無回答が1.2%となっている。



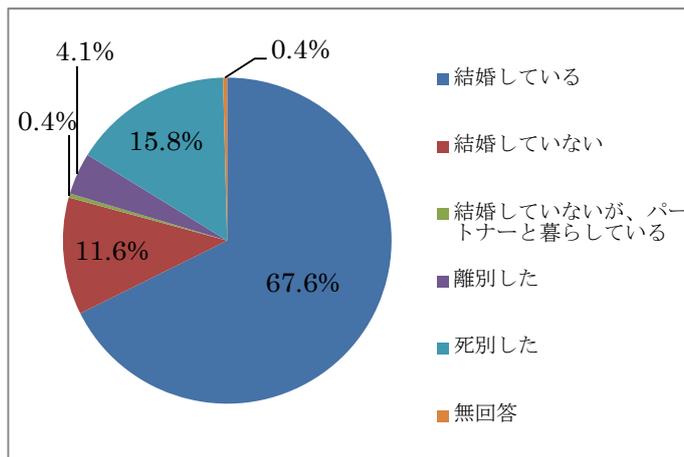
問7 あなたは、結婚していますか。(○は1つだけ)

結婚している(67.6%)、結婚していないがパートナーと暮らしている(0.4%)が合わせて68.0%となっており、前回調査よりも10.2ポイント低くなっている。また、結婚していない(11.6%)、離別した(4.1%)、死別した(15.8%)が合わせて31.5%となっており、前回調査よりも9.7ポイント高くなっている。

これは、前回調査においては調査対象に70歳代以上が含まれていなかったためと考えられる。

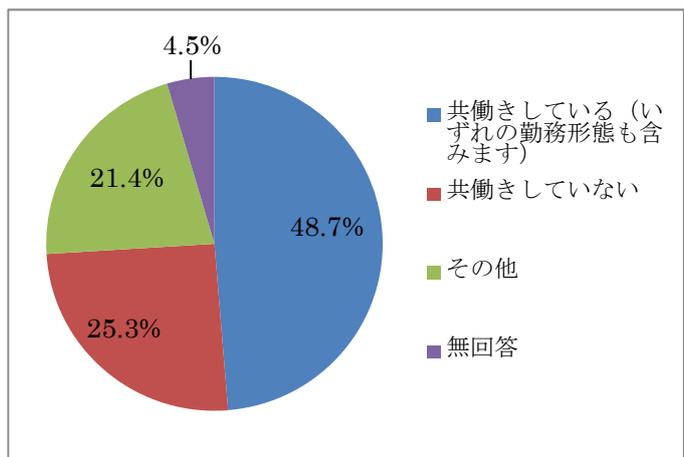
【参考】 前回調査

結婚している	78.2%
結婚していない	21.8%
無回答	0.0%



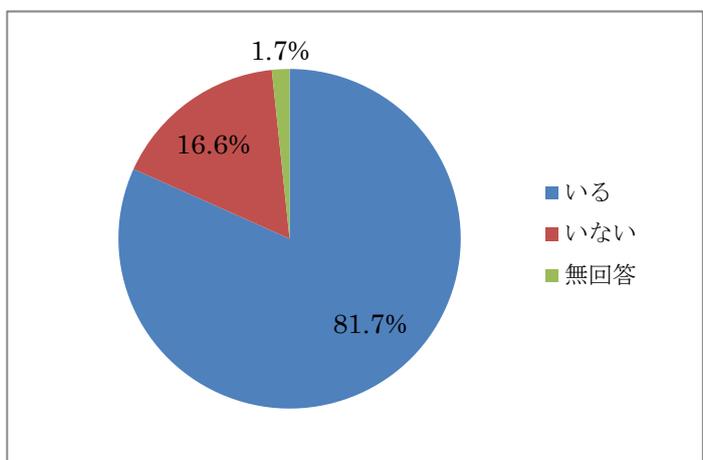
問8 この質問は 問7で「1・3」を選んだ方のみお答えください。それ以外の方は、問9へあなたは共働きですか。

問7で「1・3」を選んだ154人中、共働きしている(いずれの勤務形態も含みます)48.7%、共働きしていない25.3%、その他21.4%、無回答4.5%となっている。



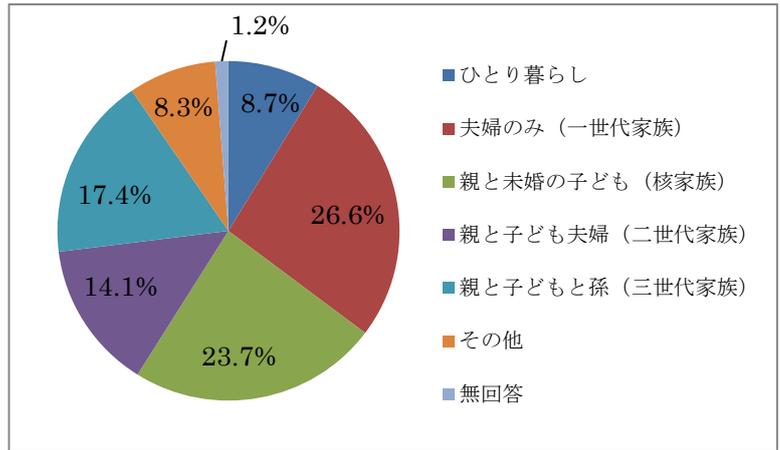
問9 あなたは、お子さんがいますか。(○は1つだけ)

お子さんが「いる」が81.7%、「いない」が16.6%、無回答が1.7%となっている。



問10 あなたの世帯構成は、次のどれにあたりますか。

世帯構成は、夫婦のみ（一世代家族）が26.6%で最も多く、親と未婚の子ども（核家族）23.7%、親と子どもと孫（三世代家族）17.4%、親と子ども夫婦（二世世代家族）14.1%、ひとり暮らし8.7%、その他8.3%と続いている。



2 男女の地位に関する意識

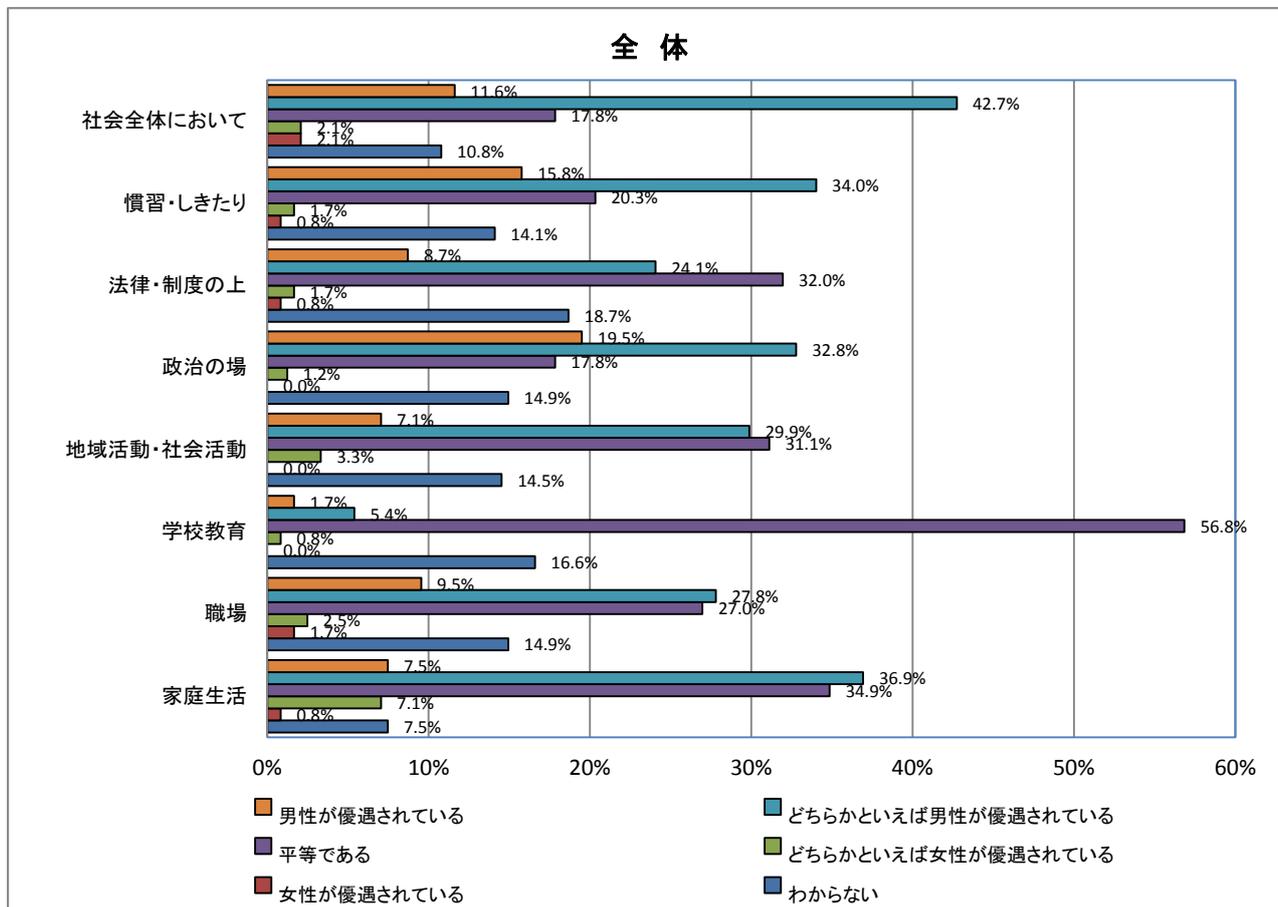
問11 あなたは次の分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。
(○は項目ごとに1つ)

意識調査結果 (H19・H28) の比較

設問と回答		男		女		全体		
		H19	H28	H19	H28	H19	H28	増減
家庭生活	男性が優遇されている	14.0%	4.9%	27.6%	9.4%	21.8%	7.5%	-14.3%
	どちらかといえば男性が優遇されている	30.2%	34.0%	32.8%	39.1%	31.7%	36.9%	5.2%
	平等である	46.5%	41.7%	32.8%	29.7%	38.6%	34.9%	-3.7%
	どちらかといえば女性が優遇されている	4.7%	9.7%	3.4%	5.1%	4.0%	7.1%	3.1%
	女性が優遇されている	2.3%	1.0%	0.0%	0.7%	1.0%	0.8%	-0.2%
	わからない	*	3.9%	*	10.1%	*	7.5%	*
	無回答	2.3%	4.9%	3.4%	5.8%	3.0%	5.4%	2.4%
職場	男性が優遇されている	11.6%	6.8%	27.6%	11.6%	20.8%	9.5%	-11.3%
	どちらかといえば男性が優遇されている	41.9%	39.8%	27.6%	18.8%	33.7%	27.8%	-5.9%
	平等である	30.2%	25.2%	32.8%	28.3%	31.7%	27.0%	-4.7%
	どちらかといえば女性が優遇されている	7.0%	4.9%	3.4%	0.7%	5.0%	2.5%	-2.5%
	女性が優遇されている	0.0%	1.0%	1.7%	2.2%	1.0%	1.7%	0.7%
	わからない	*	12.6%	*	16.7%	*	14.9%	*
	無回答	9.3%	9.7%	6.9%	21.7%	7.9%	16.6%	8.7%
学校教育	男性が優遇されている	2.3%	0.0%	6.9%	2.9%	5.0%	1.7%	-3.3%
	どちらかといえば男性が優遇されている	18.6%	3.9%	20.7%	6.5%	19.8%	5.4%	-14.4%
	平等である	62.8%	65.0%	62.1%	50.7%	62.4%	56.8%	-5.6%
	どちらかといえば女性が優遇されている	9.3%	1.0%	3.4%	0.7%	5.9%	0.8%	-5.1%
	女性が優遇されている	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	わからない	*	17.5%	*	15.9%	*	16.6%	*
	無回答	7.0%	12.6%	6.9%	23.2%	6.9%	18.7%	11.8%
地域活動・社会活動	男性が優遇されている	11.6%	2.9%	22.4%	10.1%	17.8%	7.1%	-10.7%
	どちらかといえば男性が優遇されている	39.5%	33.0%	44.8%	27.5%	42.6%	29.9%	-12.7%
	平等である	37.2%	38.8%	22.4%	25.4%	28.7%	31.1%	2.4%
	どちらかといえば女性が優遇されている	7.0%	5.8%	3.4%	1.4%	5.0%	3.3%	-1.7%
	女性が優遇されている	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	わからない	*	9.7%	*	18.1%	*	14.5%	*
	無回答	4.7%	9.7%	6.9%	17.4%	5.9%	14.1%	8.2%
政治の場	男性が優遇されている		13.6%		23.9%		19.5%	
	どちらかといえば男性が優遇されている		40.8%		26.8%		32.8%	
	平等である		24.3%		13.0%		17.8%	
	どちらかといえば女性が優遇されている	*	2.9%	*	0.0%	*	1.2%	*
	女性が優遇されている		0.0%		0.0%		0.0%	
	わからない		8.7%		19.6%		14.9%	
	無回答		9.7%		16.7%		13.7%	
法律・制度の上	男性が優遇されている	2.3%	3.9%	25.9%	12.3%	15.8%	8.7%	-7.1%
	どちらかといえば男性が優遇されている	32.6%	19.4%	34.5%	27.5%	33.7%	24.1%	-9.6%
	平等である	53.5%	49.5%	22.4%	18.8%	35.6%	32.0%	-3.6%
	どちらかといえば女性が優遇されている	7.0%	2.9%	5.2%	0.7%	5.9%	1.7%	-4.2%
	女性が優遇されている	0.0%	1.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	0.8%
	わからない	*	13.6%	*	22.5%	*	18.7%	*
	無回答	4.7%	8.7%	12.1%	18.1%	8.9%	14.1%	5.2%
慣習・しきたり	男性が優遇されている	16.3%	12.6%	53.4%	18.1%	37.6%	15.8%	-21.8%
	どちらかといえば男性が優遇されている	53.5%	35.0%	27.6%	33.3%	38.6%	34.0%	-4.6%
	平等である	23.3%	29.1%	6.9%	13.8%	13.9%	20.3%	6.4%
	どちらかといえば女性が優遇されている	2.3%	2.9%	5.2%	0.7%	4.0%	1.7%	-2.3%
	女性が優遇されている	0.0%	1.0%	0.0%	0.7%	0.0%	0.8%	0.8%
	わからない	*	10.7%	*	16.7%	*	14.1%	*
	無回答	4.7%	8.7%	6.9%	16.6%	5.9%	13.3%	7.4%
社会全体において	男性が優遇されている	2.3%	5.8%	27.6%	15.9%	16.8%	11.6%	-5.2%
	どちらかといえば男性が優遇されている	55.8%	44.7%	53.4%	41.3%	54.5%	42.7%	-11.8%
	平等である	30.2%	29.1%	10.3%	9.4%	18.8%	17.8%	-1.0%
	どちらかといえば女性が優遇されている	7.0%	3.9%	1.7%	0.7%	4.0%	2.1%	-1.9%
	女性が優遇されている	0.0%	2.9%	1.7%	1.4%	1.0%	2.1%	1.1%
	わからない	*	5.8%	*	14.5%	*	10.8%	*
	無回答	4.7%	7.8%	5.2%	16.7%	5.0%	12.9%	7.9%

男女の地位について、H19年調査と比較すると全ての分野において「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた男性優位の割合が低くなった。

分野別では、「慣習・しきたり」においてH19年に男性優位が76.2%だったのに対し、今回調査では49.8%と最も下げ幅が大きくなっている。



今回調査について、男女の地位について、分野別にみると、「学校教育」「法律・制度の上」以外の分野で、「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた男性優位になっている。男性が優遇されていると思う分野の第1位は「社会全体において」(54.3%)、第2位が「政治の場」(52.3%)、第3位が「慣習・しきたり」(49.8%)となっている。

平等である割合が一番高かったのは「学校教育」においてで、男性優位が7.1%、平等であるが56.8%、女性優位が0.8%となっており、学校教育における男女平等が進んでいる。

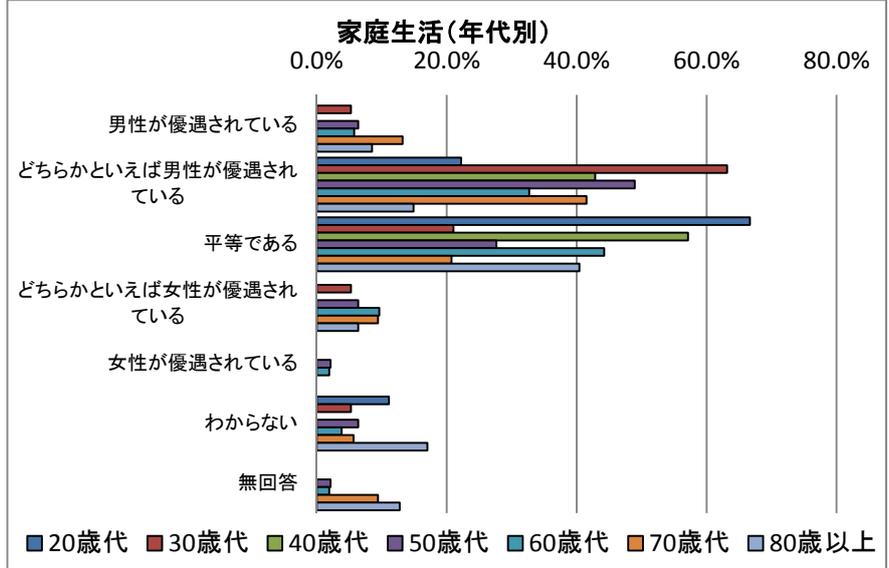
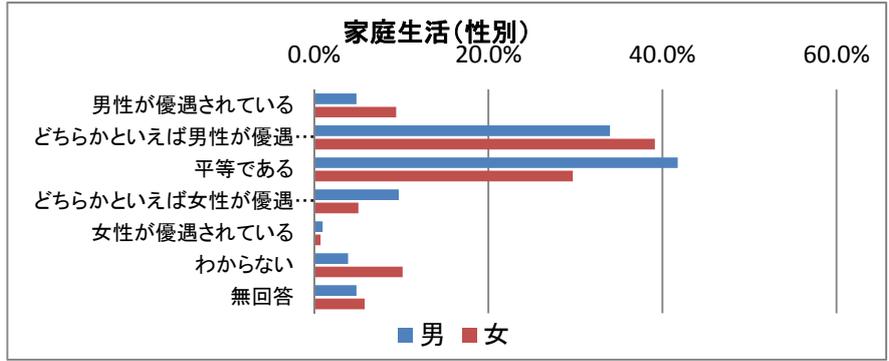
性別でみると、各分野で女性は男性優位と感じ、男性は平等、または女性優位だと認識しがちな傾向がある。一方、女性優位は全ての分野において1割未満と低い割合となっている。

各分野において、H19年と比較すると男女の地位は改善傾向にあるものの、男性優位になっている分野が多い。特に、「慣習・しきたり」「社会全体において」の男性優位の考えには根深いものがあり、一人一人の意識改革に加え、社会全体を挙げた具体的な取組みが必要である。

①家庭生活

全体では、男性優位が44.4%、平等であるが34.9%、女性優位が7.9%となっている。女性は男性優位、男性は平等または女性優位とする割合が高い。平等であるとする割合は男性が41.7%、女性が29.7%となっている。

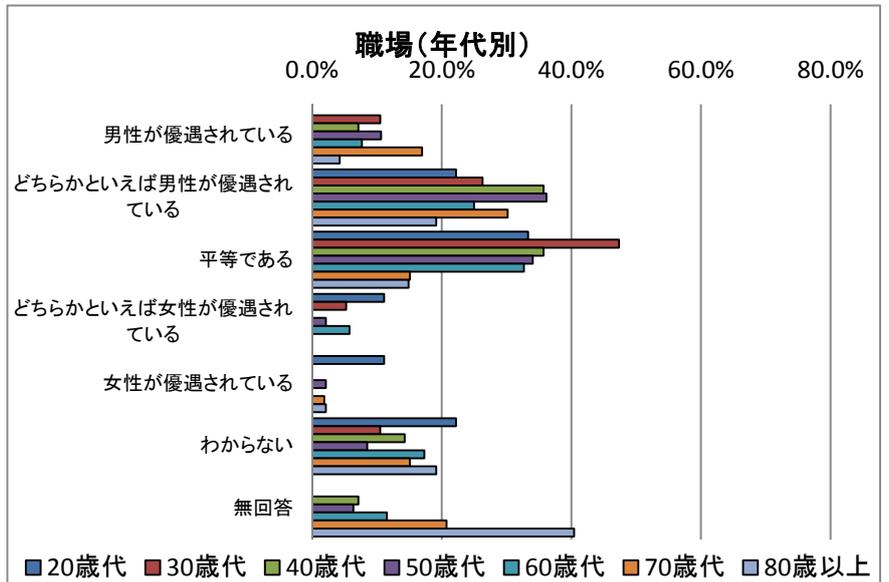
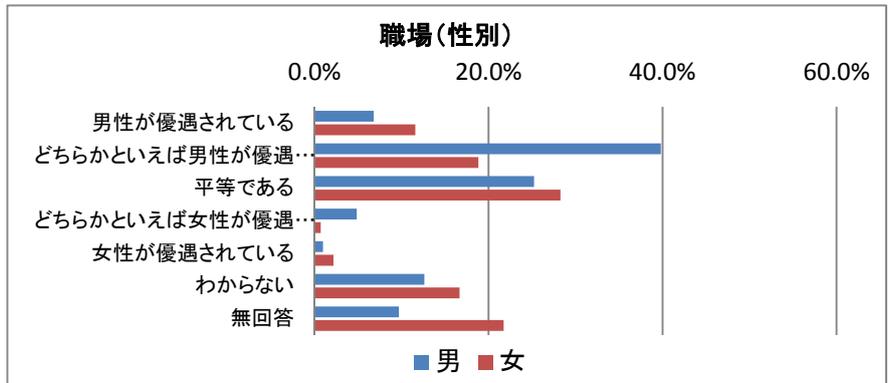
年代別にみると、「家庭生活」において20歳代では、66.7%が平等になっていると認識している。最も平等になっていると回答した割合が低いのは70歳代の20.8%、次いで30歳代の21.1%と続いている。30歳代の割合が低いのは子育て世代において、子育てが母親の負担になっている結果と考えられる。



②職場

男女ともに男性優遇（男性：46.6%、女性：30.4%）の割合が最も高く、次いで平等である（男性25.2%、女性28.3%）となっている。女性の男性優遇と平等であるとする者の割合の差が少なくなっている。

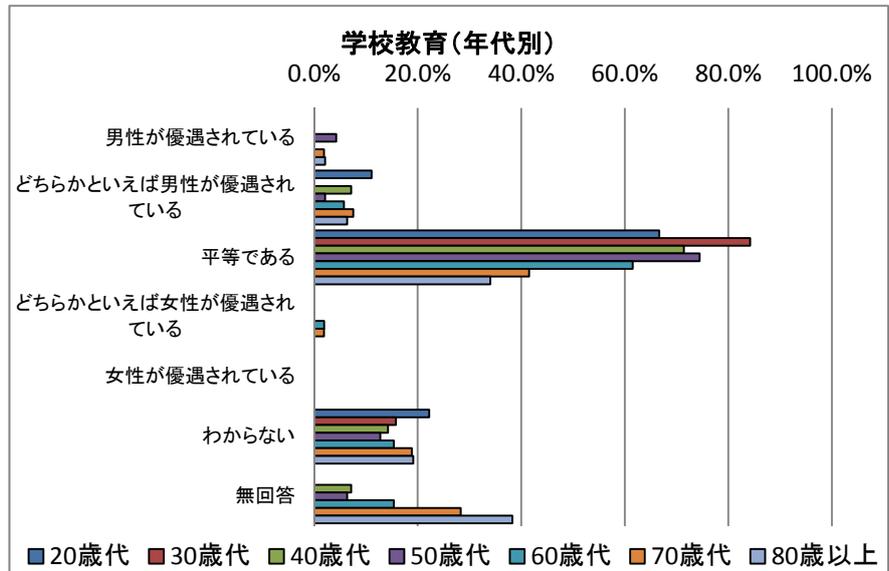
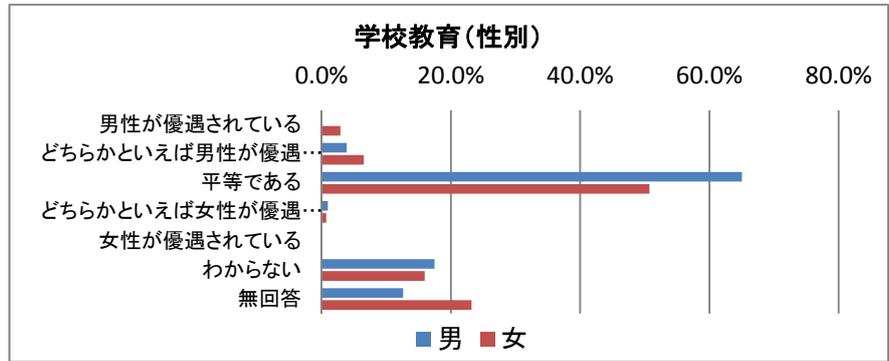
年代別にみると、30歳代が最も平等であるとする者の割合が高く47.4%、次いで40歳代の35.7%、50歳代、20歳代、60歳代と30%代が続いている。70歳代、80歳以上では割合が低くなっている。



③学校教育

男女ともに平等である（男性：65.0%、女性：50.7%）の割合が最も高い。男性優遇であるとする割合が1割未満となっている。

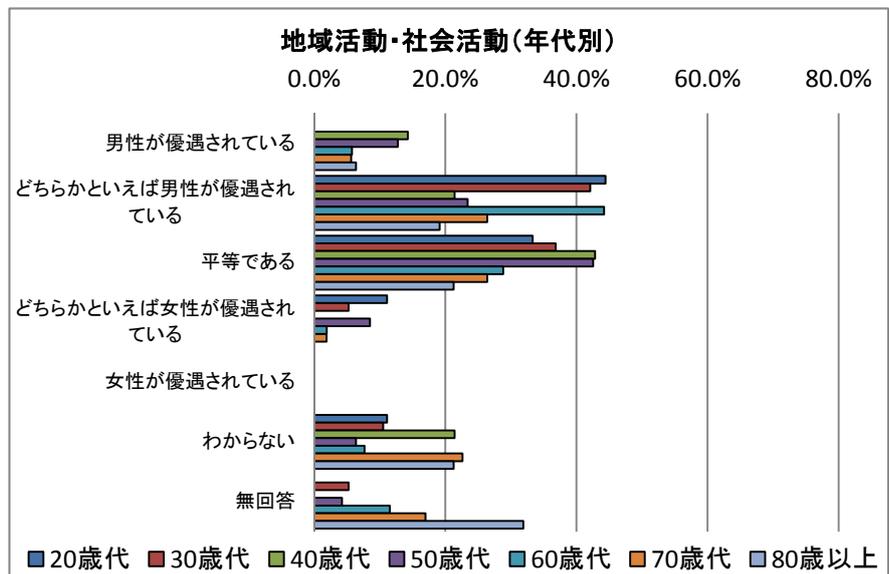
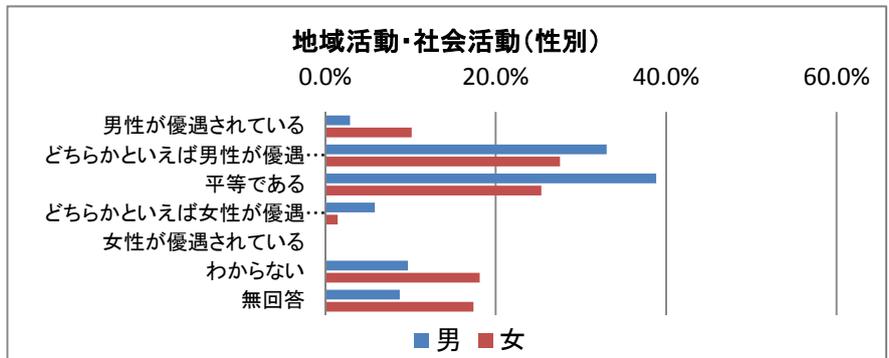
また、わからない・無回答が35.3%と多くなっている。これは、就業している子供がいるかいないか、教育の場に参加する機会の有無などの要因が考えられる。



④地域活動・社会活動

全体では、男性優位が36.9%（男性：35.9%、女性37.7%）、平等であるが31.1%（男性：38.8%、女性25.4%）となっている。

男性優位の割合がほぼ同じであるのに対して、平等であるは男女間で13.4ポイントのひらきがあり男女の意識には違いがある。



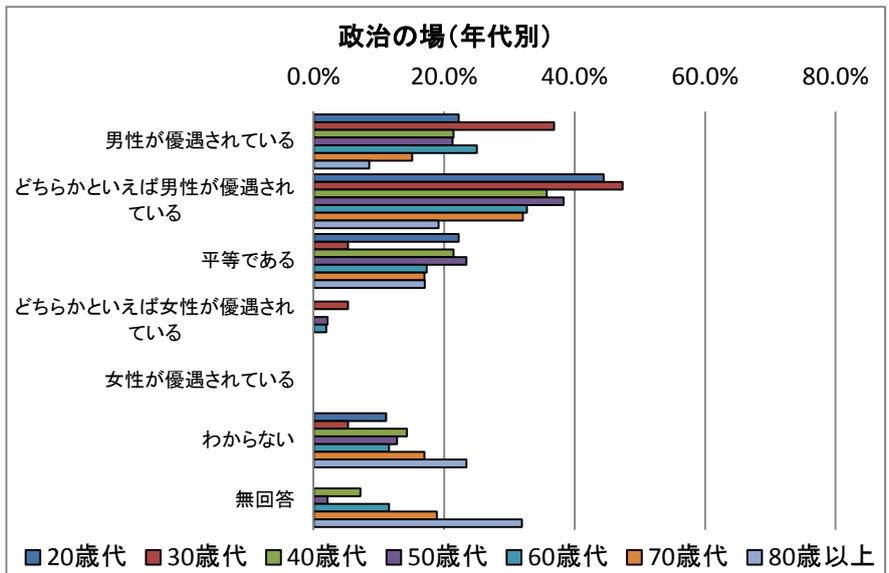
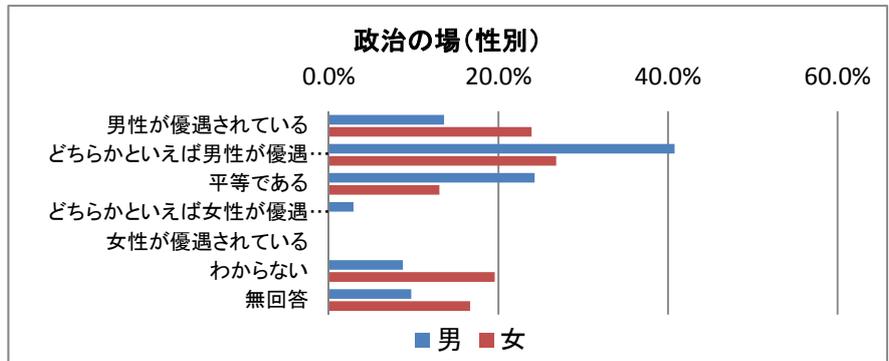
⑤政治の場

全体では、男女ともに男性優位の割合が高くなっていて52.3%（男性：54.4%、女性50.7%）、男女共に男性優位が5割を超えている。

平等であるの割合は17.8%（男性：24.3%、女性13.0%）となっている。

男性優位の割合は年代が上がるにつれ低くなっている。

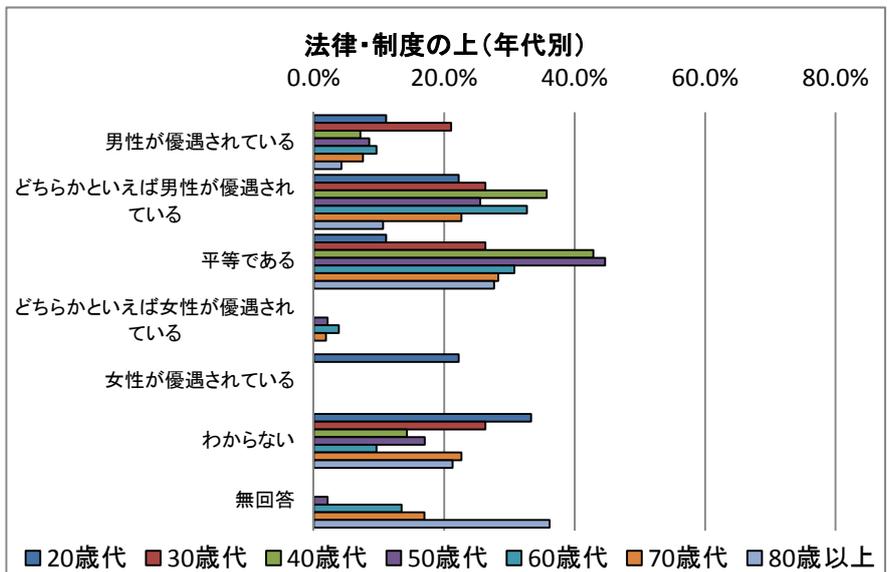
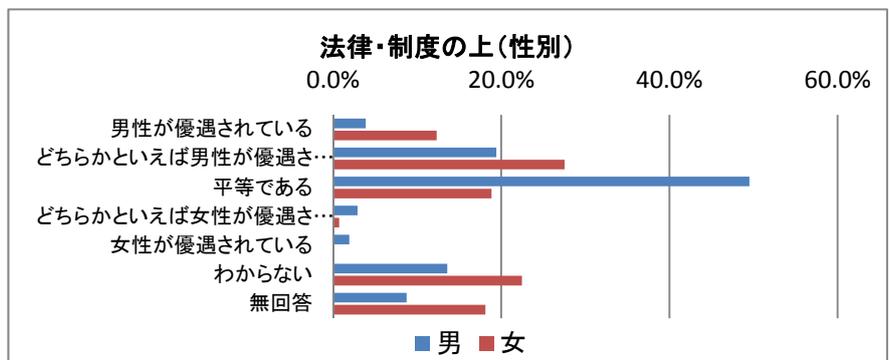
わからない・無回答の割合が年代が上がるにつれ高くなっていて70歳代では35.8%、80歳以上では55.3%と5割以上となっている。



⑥法律・制度の上

全体では、男性優位の割合が32.8%（男性：23.3%、女性39.9%）、平等であるの割合が32.0%（男性：49.5%、女性18.8%）となっており、男性優位と平等であるが僅差となっている。

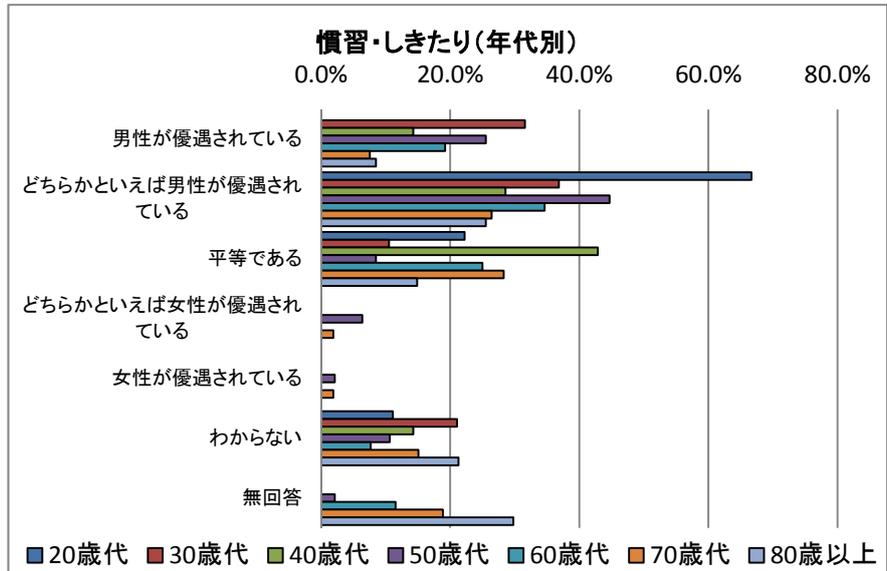
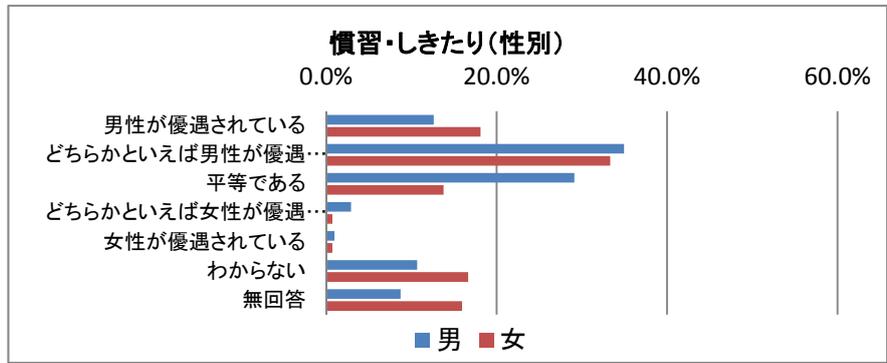
性別で比較すると男性優位の割合が16.6ポイント女性で高くなっていて、平等であるの割合が30.7ポイント男性で高くなっている。意識に男女間の大きな差がみられる。



⑦慣習・しきたり

男女共に男性優位の割合（男性：49.8%、女性：47.6%）が最も高い。

年代別にみると50歳代が最も高く70.2%となっている。次いで30歳代が68.4%、20歳代が66.7%と続いている。

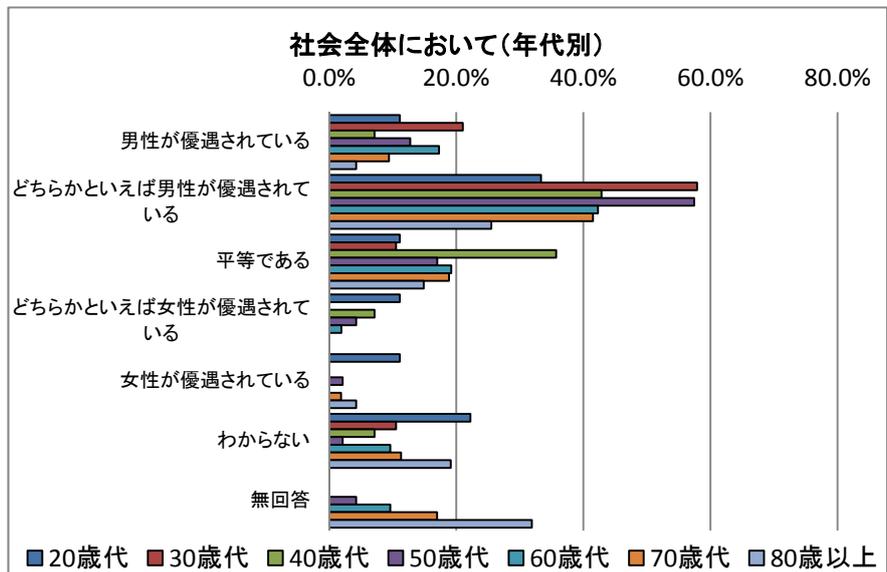
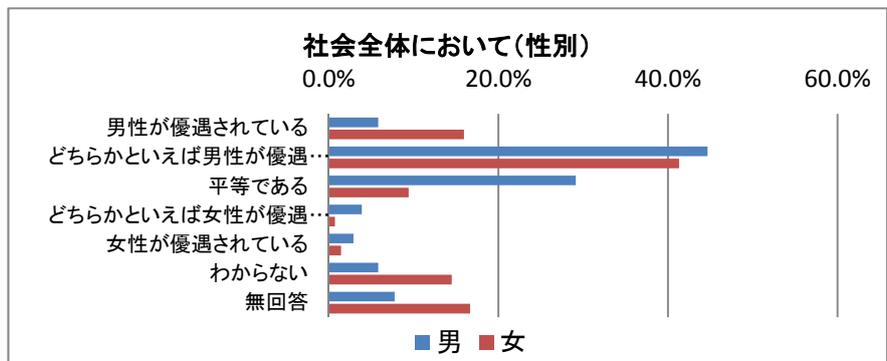


⑧社会全体において

全体では男性優位が54.4%（男性：50.5%、女性：57.2%）となっている。

平等であるが男性では29.1%、女性では9.4%となっていて男女間で19.7ポイントのひらきがあり男女の意識には違いがある。

年代別でみると、男性優位の割合が最も高かったのは30歳代で78.9%、最も低かったのは20歳代で44.4%となっている。女性優位の割合は、20歳代で22.2%であるのに対し、他の全ての世代では1割を切っている。



3 家庭生活に関する意識

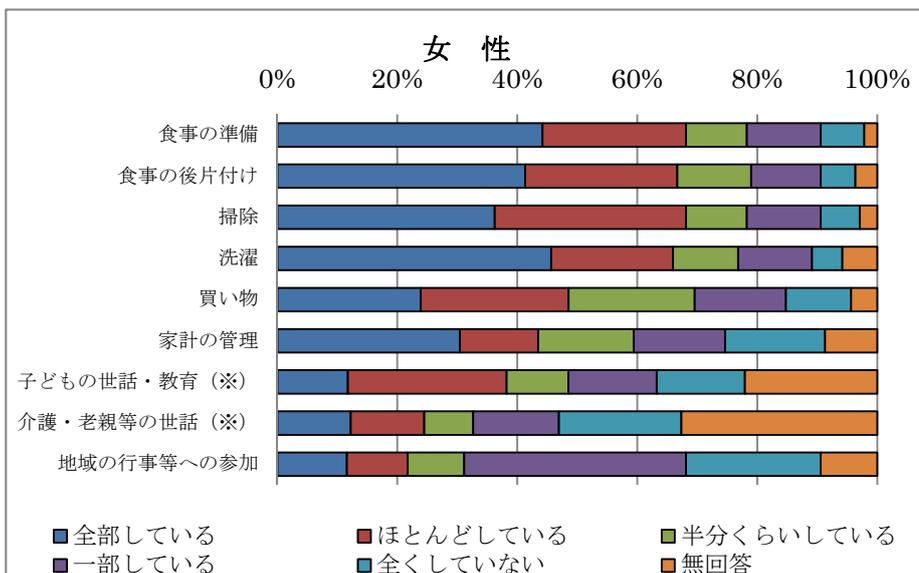
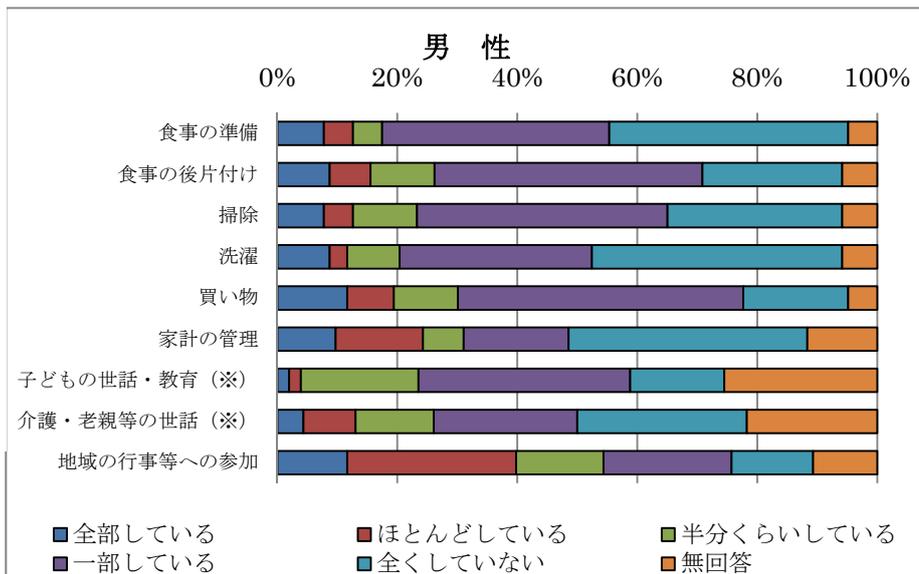
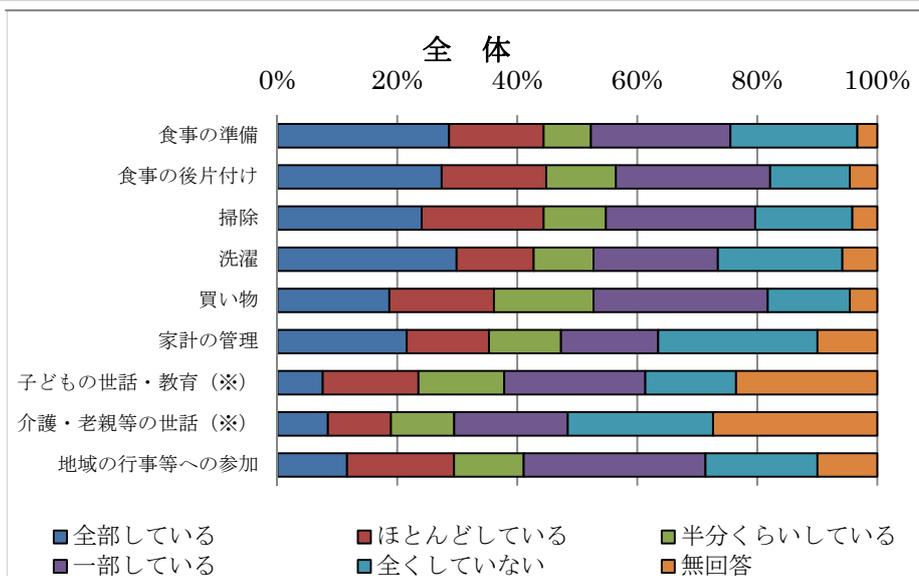
問12 家庭における役割分担について、あなたの現状に一番近いものは何ですか。
(○は項目ごとに1つ)

男女別にみると、女性では「食事の準備」「食事の後片付け」「掃除」「洗濯」が6割～7割の間、男性では1割代となっていて女性が分担する割合が高くなっている。

「買い物」「家計の管理」は女性では5割弱、男性では2割前後となっていて、女性と男性の負担感には差がある。

「子どもの世話・教育」では「該当なし」を除いた割合が男性が3.9%、女性が38.2%となっていて女性が34.3%ポイント上回っている。

「地域の行事等への参加」では男性が39.8%、女性が21.7%となっていて、調査項目中、唯一、男性の割合が女性の割合より高くなっている。



問13 あなたの生活において、現実として優先しているものは何ですか。また、理想として優先したいものは何ですか。(〇は項目ごとに3つまで)

全体で見ると、現実・理想ともに「家族や家庭生活」(現実 35.9%、理想 36.6%)の割合が最も高い。

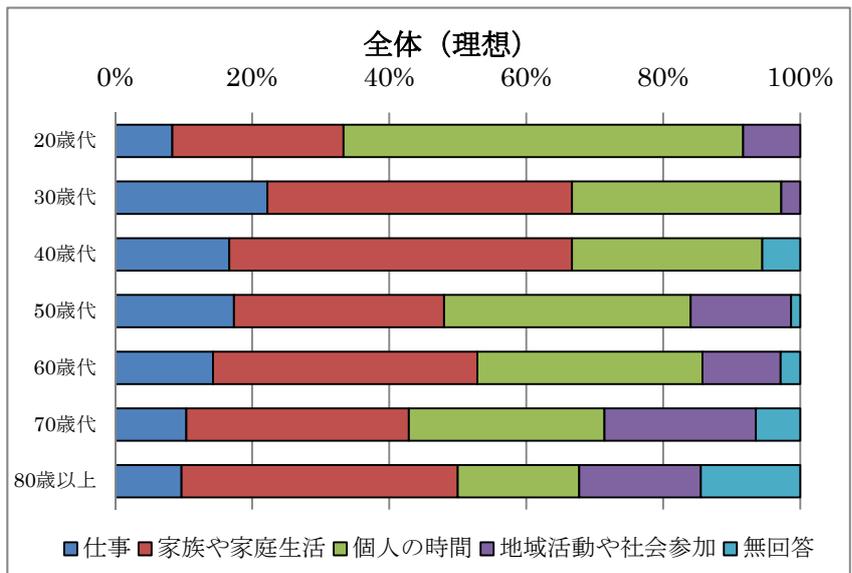
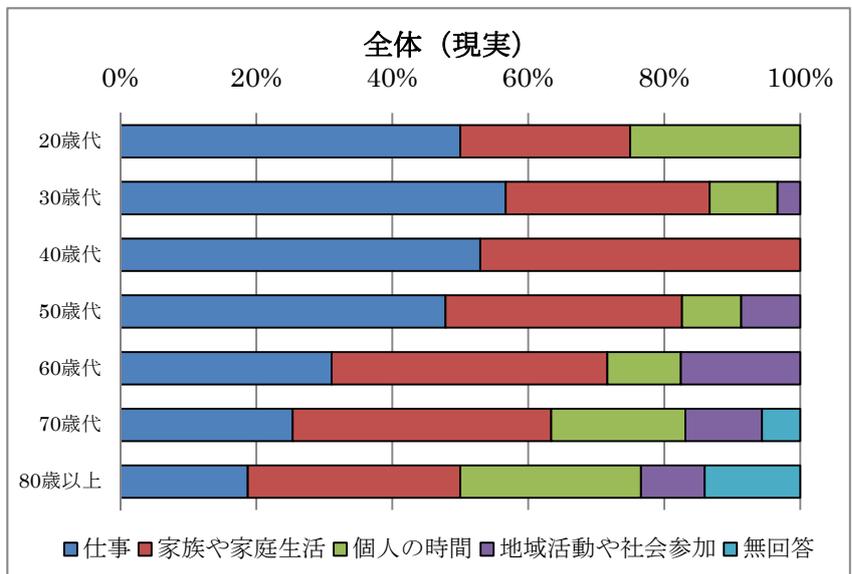
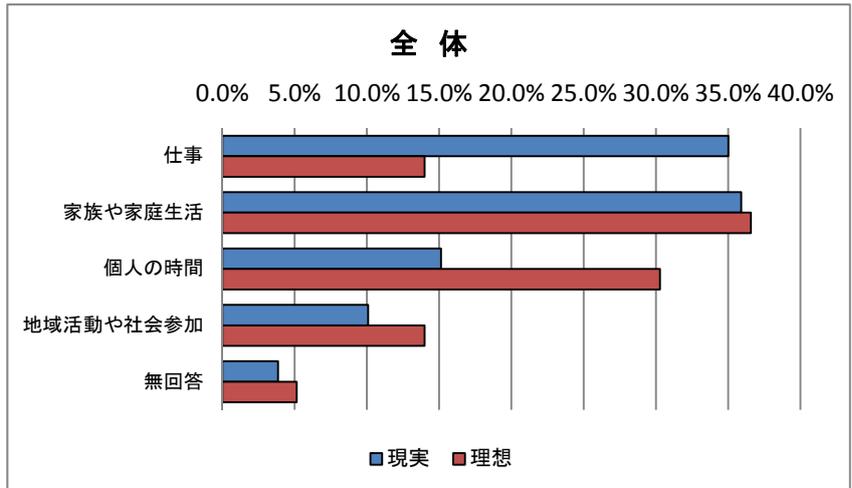
次いで割合が高いのは、理想では「個人の時間」(30.3%)なのに対し、現実では「仕事」(35.0%)となっている。

現実・理想ともに「地域活動や社会参加」(現実 10.1%、理想 14.0%)の割合は最も低い。

年代別にみると、20歳代では「仕事」が現実では50.0%、理想が8.3%となっていて、差が41.7%と現実と理想のギャップが最も大きくなっている。

20歳代から50歳代の間では、現実において「仕事」が最も大きな割合を占めている。(20歳代50.0%、30歳代56.7%、40歳代52.9%、50歳代47.8%)

40歳代では、現実において「仕事」と「家族や家庭生活」で100%を占めている。



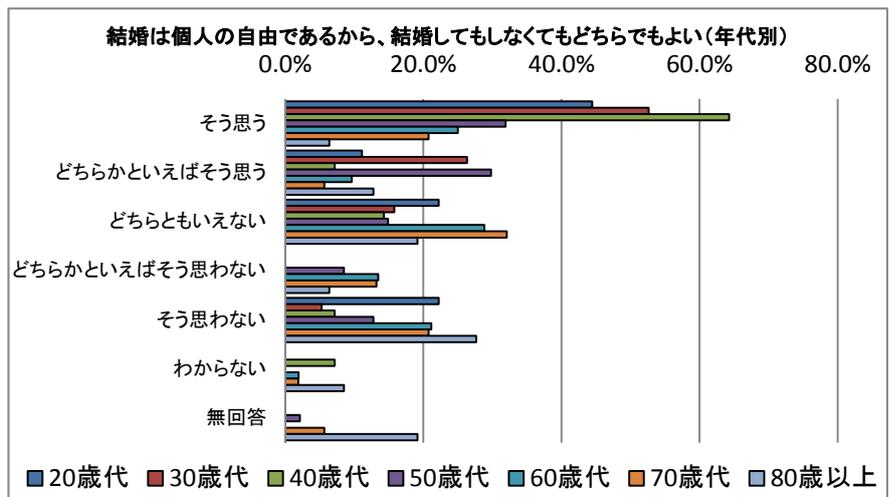
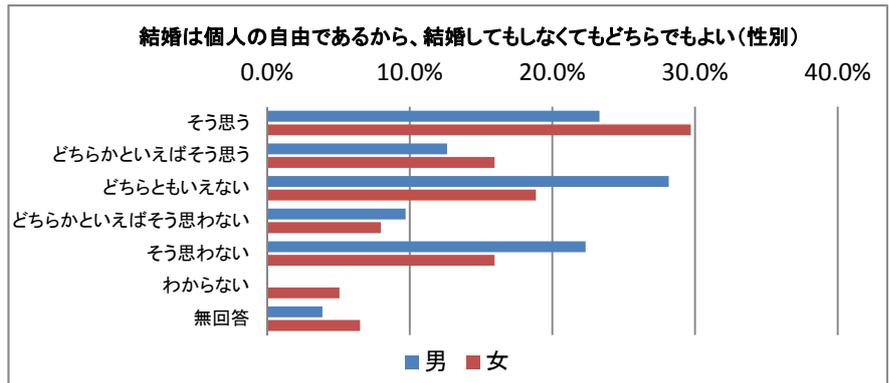
問14 次にあげる結婚の考えについて、どのように思いますか。(〇は項目ごとに1つ)

①結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもどちらでもよい

全体では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定派が41.5%と最も高く、次いで「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた否定派が27.4%、「どちらともいえない」が22.8%と続いている。

男女別では、男女ともに肯定派(男性35.9%、女性45.7%)が否定派(男性32.0%、女性23.9%)を上回る。男性では肯定派と否定派の割合に差異があまりないが女性では21.8ポイントのひらきがある。

年代別にみると、30歳代以上では、年代が上がるにつれて肯定派の割合が低下する傾向にある。

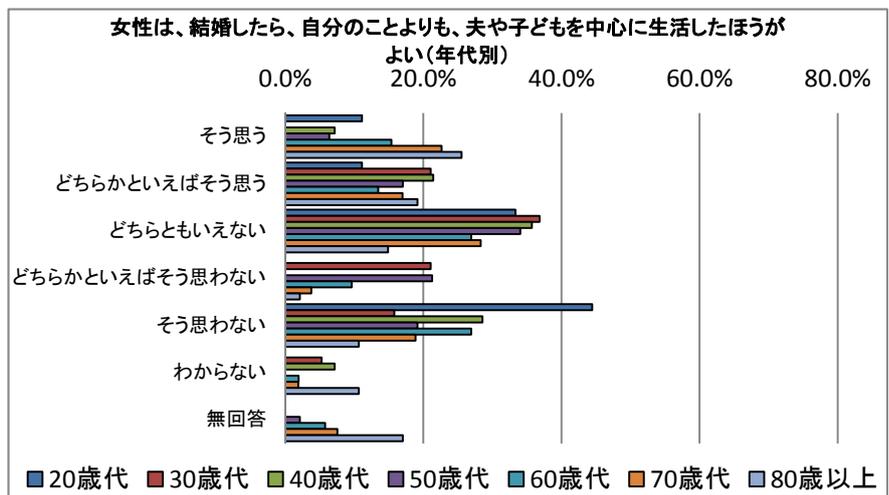
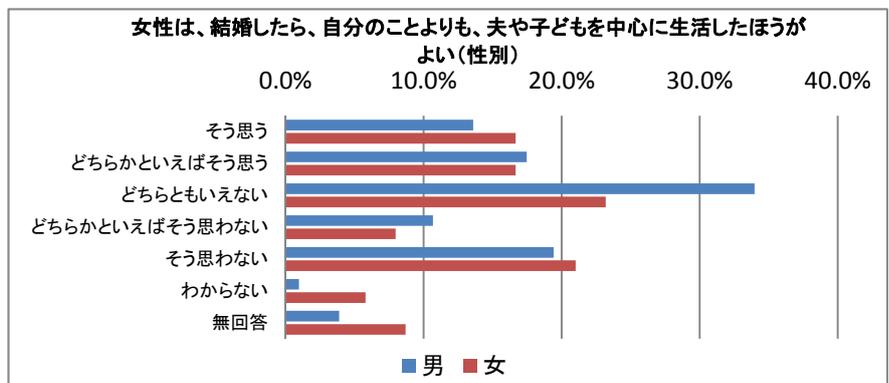


②女性は、結婚したら、自分のことよりも、夫や子どもを中心に生活したほうがよい

全体では、肯定派が32.4%、否定派が29.5%、どちらともいえないが27.8%と僅差で続いている。

男女別にみると、女性では肯定派が33.3%と最も高く、男性ではどちらともいえないが34.0%と最も高い。

年代別では、年代が上がるにつれ肯定派の割合が高くなり、否定派の割合が低くなる傾向がある。

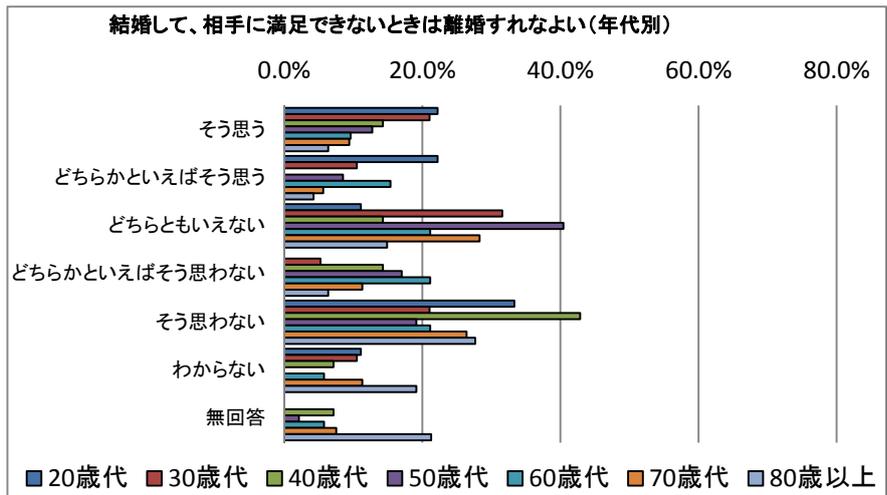
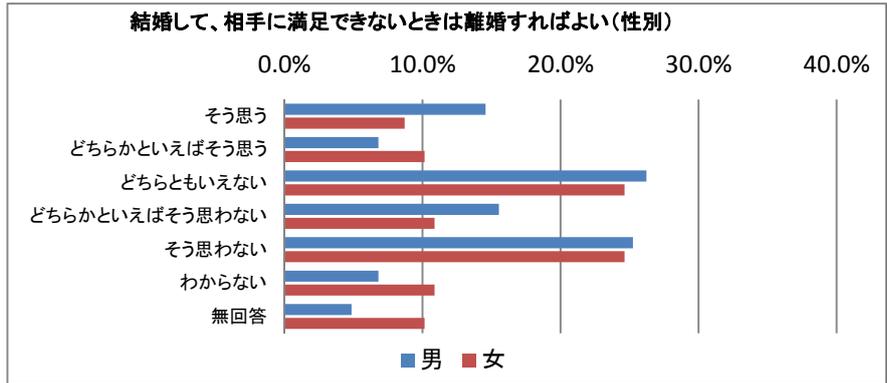


③結婚して、相手に満足できないときは離婚すればよい

全体では、否定派が 37.8%、どちらともいえないが 25.3%、肯定派が 19.9%と続いている。否定派が肯定派を 17.9 ポイント上回っている。

男女別では男女とも否定派の割合が最も高くなっていて、否定派（男性 40.8%、女性 35.5%）が肯定派（男性 21.4%、女性 18.8%）を上回る。

年代別では、年代が上がるにつれ肯定派の割合が低くなっている。20歳代・30歳代では否定派より肯定派の割合が高くなっているが、40歳代以上では否定派の割合が高い。

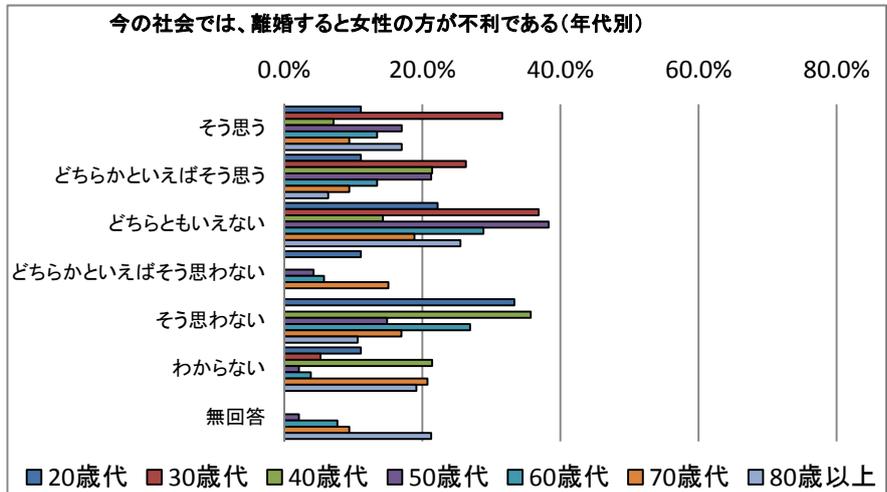
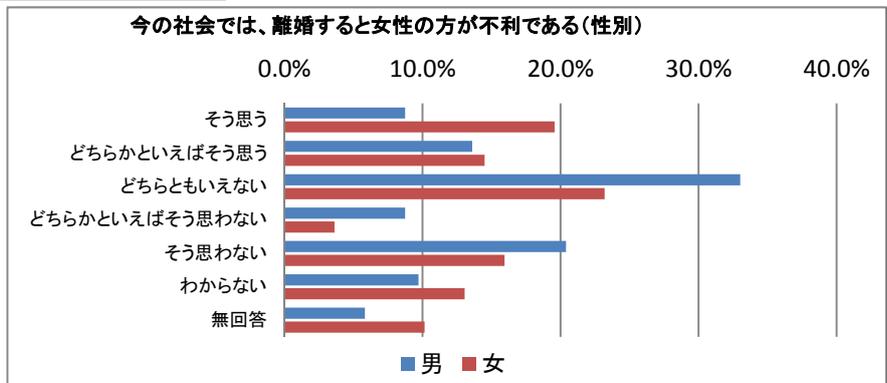


④今の社会では、離婚すると女性の方が不利である

全体では、肯定派が 29.0%、どちらともいえないが 27.4%、否定派が 23.7%と続いている。

男女別では、肯定派が男性 22.3%、女性 34.1%なのに対し、否定派では男性 29.1%、女性 19.6%と男女間で逆転している。

年代別では、30歳代で肯定派の割合が最も高く 57.9%で、どちらともいえないが 36.8%、否定派が 0%となっている。30歳代・50歳代・80歳以上で肯定派の割合が高くなっていて、20歳代・40歳代・60歳代・70歳代では否定派の割合の方が高くなっている。

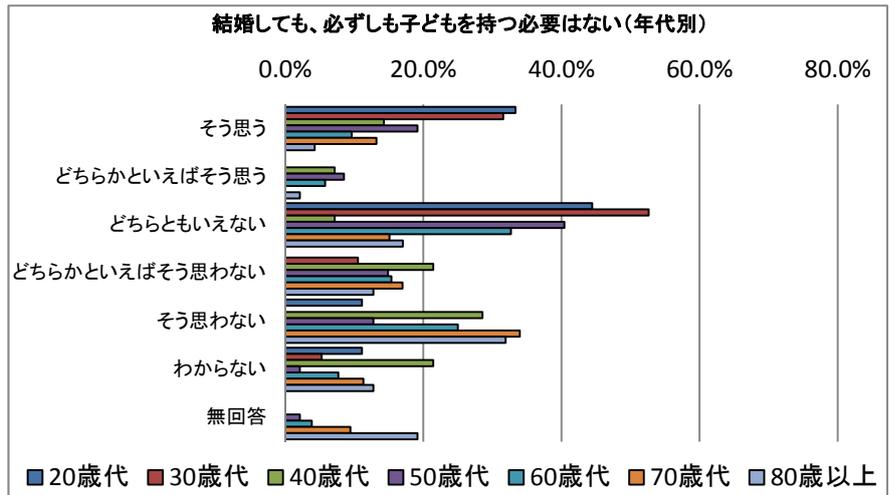
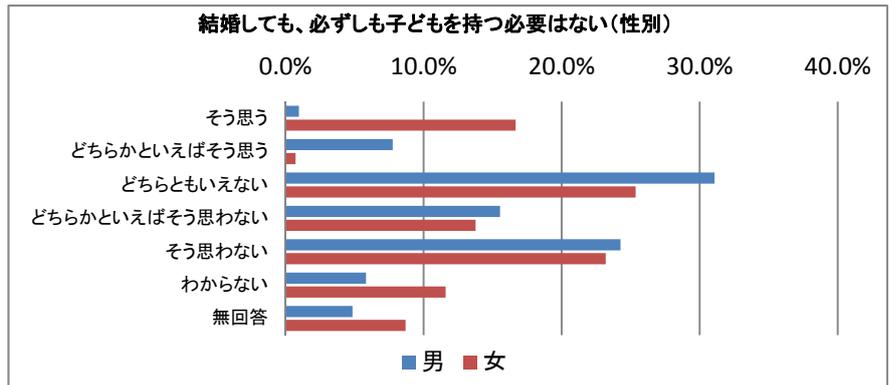


⑤結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない

全体では、否定派が38.2%、どちらともいえないが27.8%、肯定派が13.7%と続き、否定派が肯定派を24.5%と大きく上回っている。

男女別では、男女ともに否定派（男性：39.8%、女性：37.0%）が肯定派（男性：8.7%、女性17.4%）を上回る。

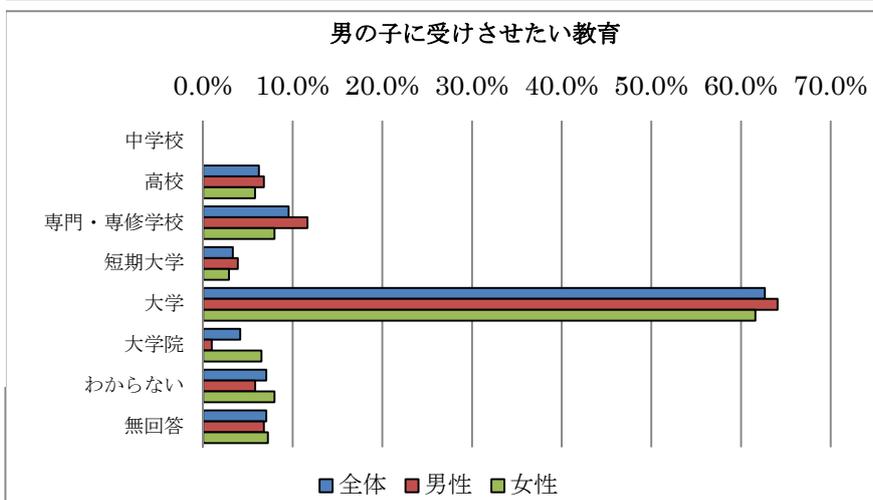
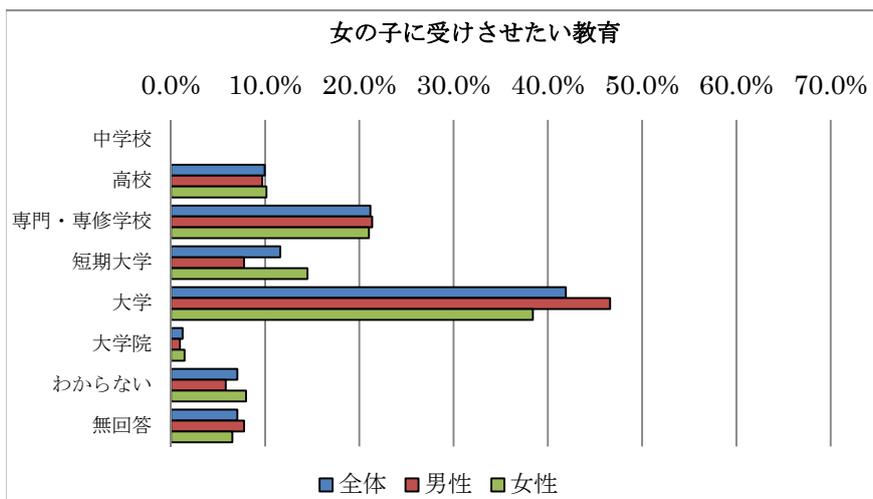
年代別では、肯定派の割合は年代が上がるにつれ低くなる傾向がある。20歳代・30歳代・50歳代ではどちらともいえないが、40歳代・60歳代以上では否定派が最も割合が高く、肯定派が最も高くなった年代はない。



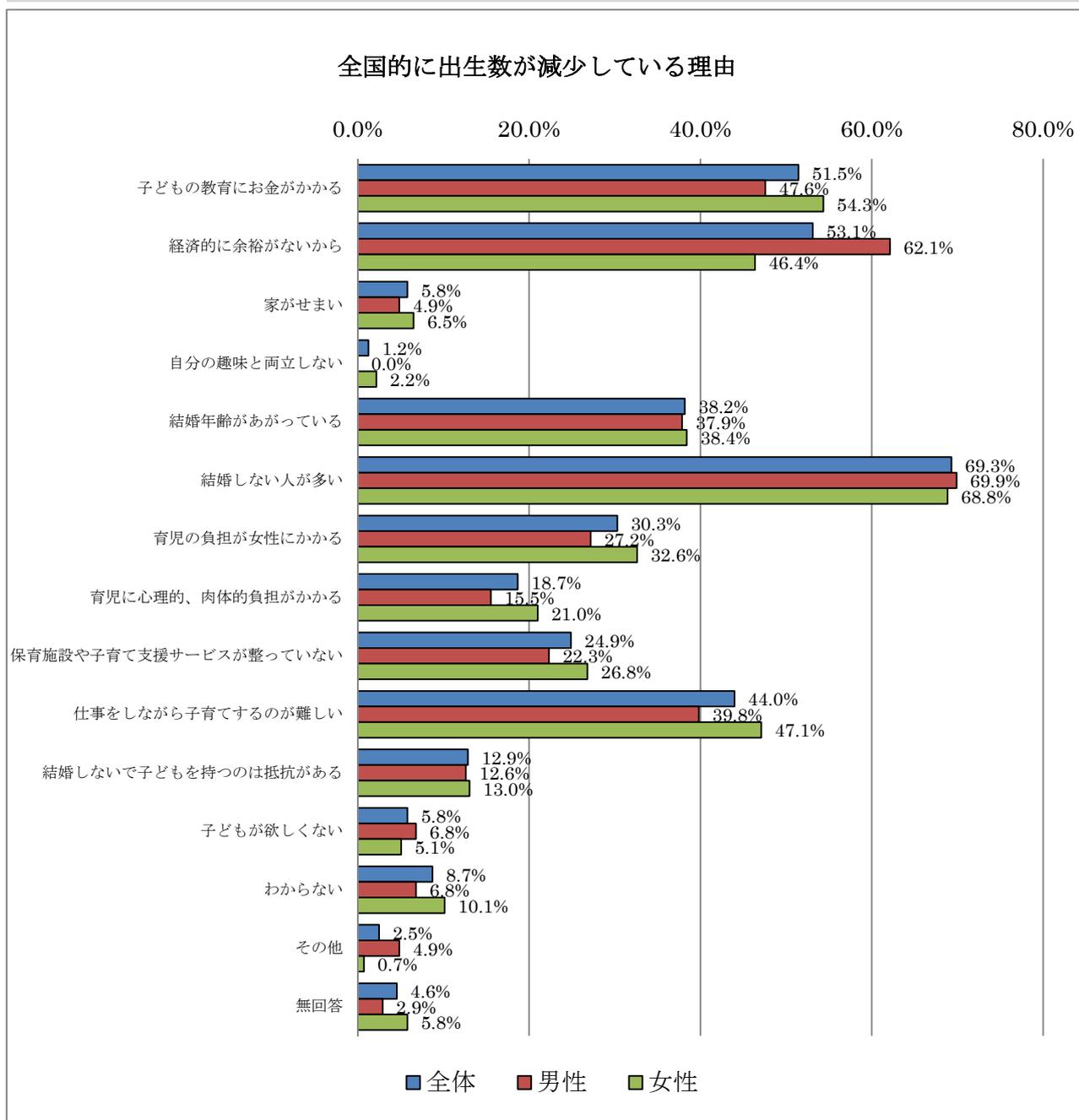
問15 あなたは、子どもにどの程度の教育を受けさせたいと思いますか。子どもがいない場合も(既に卒業等した場合)もいると仮定して、現在の親としての考えや希望をお答えください。(〇は項目ごとに1つ)

全体では、女の子・男の子ともに「大学」(女の子: 41.9%、男の子 62.7%)の割合が最も高い。「男の子に受けさせたい教育」では、「大学」以外の割合が1割以下なのに対し、「女の子に受けさせたい教育」では、「高校」「専門・専修学校」「短期大学」の割合が10%以上となっている。

男女別では、「女の子に受けさせたい教育」において「大学」とする者の割合が女性では38.4%なのに対して、男性では46.6%と男女差がある。他は男性と女性の割合にさほどの差異はない。



問16 全国的に出生数が減少していますが、その理由は何だと思いますか。
(○はあてはまるもの全て)

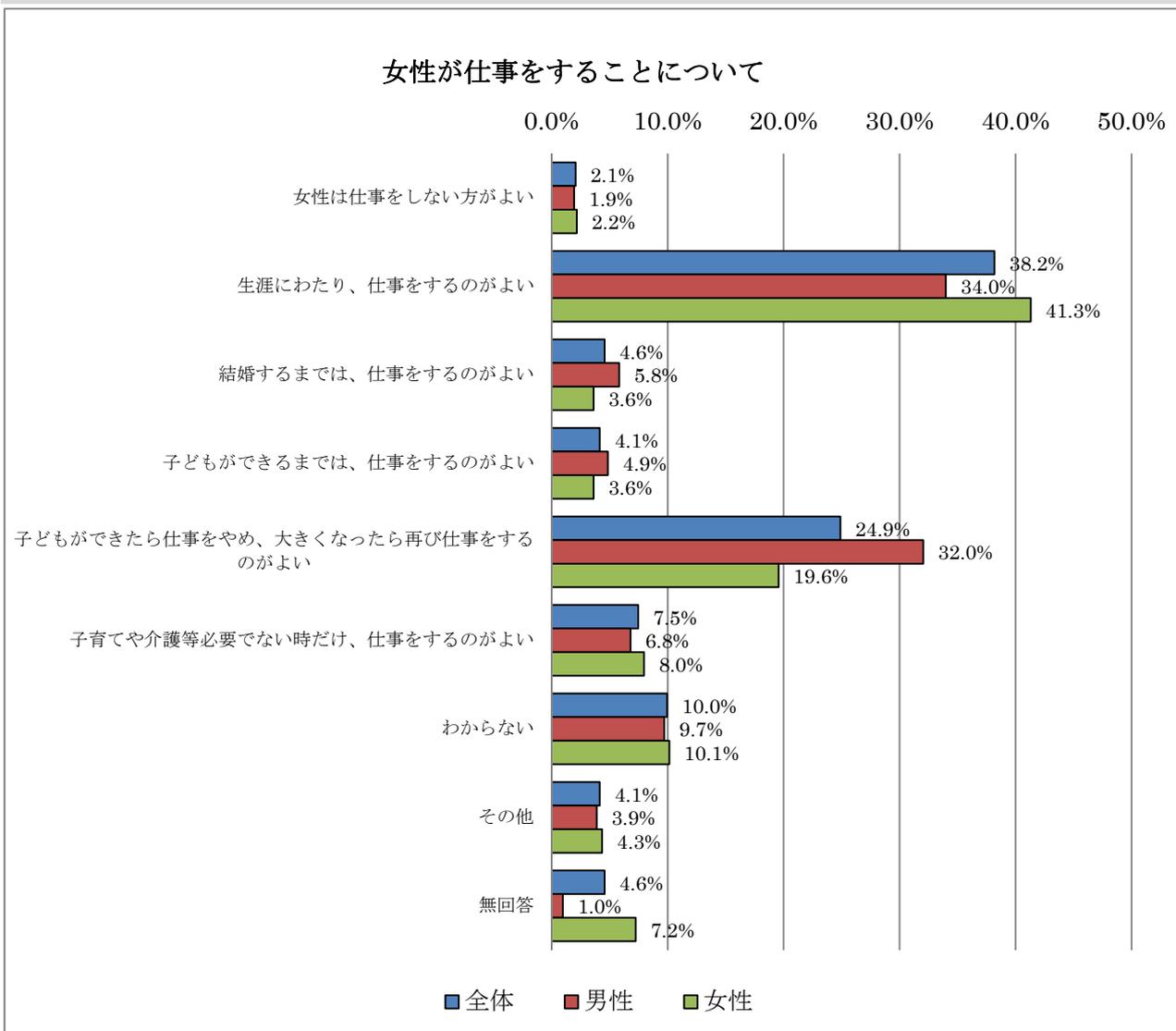


全体では「結婚しない人が多い」(69.3%)の割合が最も高く、次いで「経済的に余裕がないから」(53.1%)、「子どもの教育にお金がかかる」(51.5%)と続く。

男女別では、男女ともに「結婚しない人が多い」(男性：69.9%、女性：68.8%)が最も多い。男性では「経済的に余裕がないから」が62.1%であったのに対し、女性は46.4%と男性が15.8ポイント上回っている。「仕事をしながら子育てするのが難しい」が男性で39.8%であったのに対し、女性では47.1%と女性が7.3%上回っている。

4 女性の社会進出に対する意識

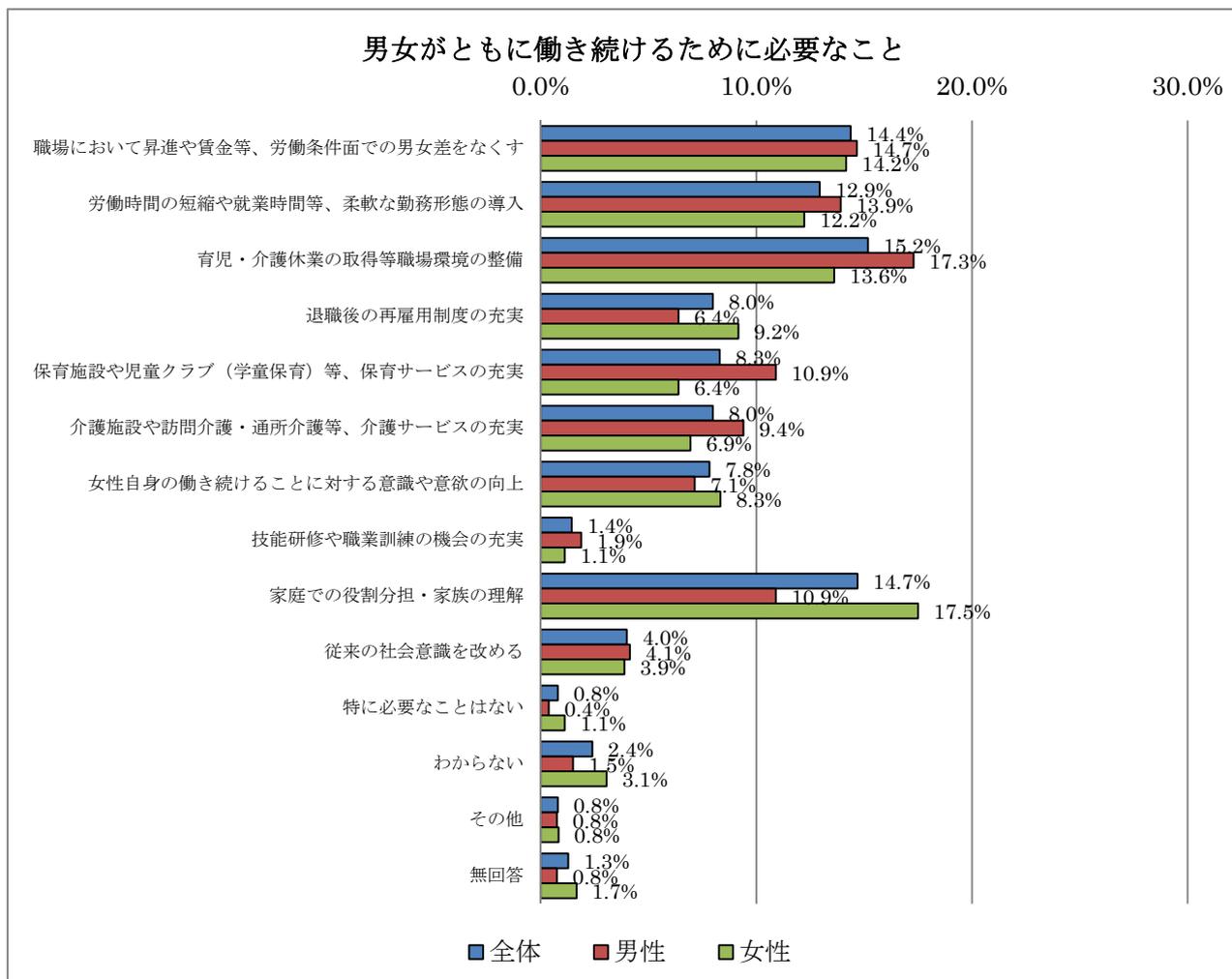
問17 女性が仕事をする事について、どのように思いますか。(○は1つだけ)



全体では「生涯にわたり、仕事をするのがよい」(38.2%)の割合が最も高く、次いで「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をするのがよい」(24.9%)、「わからない」(10.0%)と続く。それ以外については、1割未満となっている。最も低かったのは「女性は仕事をしない方がよい」で2.1%となっている。

男女別では、男女ともに「生涯にわたり、仕事をするのがよい」(男性：34.0%、女性：41.3%)が最も多く、男女間では女性が7.3ポイント高くなっている。「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をするのがよい」は男性では32.0%であったのに対し、女性では19.6%と12.5ポイントの開きがあり男女の意識に違いがある。

問18 今後、女性と男性がともに働き続けるために必要なことは何だと思いますか。
(○は3つまで)



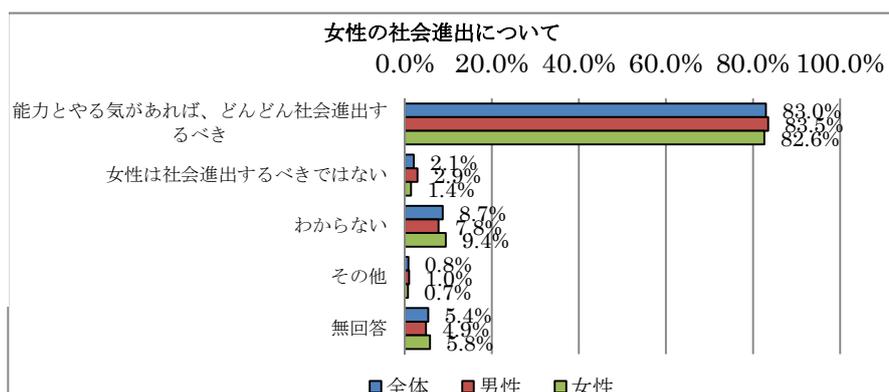
全体では「育児・介護休業の取得等職場環境の整備」(15.2%)の割合が最も高く、次いで「家庭での役割分担・家族の理解」(14.7%)、「職場において昇進や賃金等、労働条件面での男女差をなくす」(14.4%)、「労働時間の短縮や就業時間等、柔軟な勤務形態の導入」(12.9%)と僅差で続いている。

男女で差が大きいのは「家庭での役割分担・家族の理解」(男性：10.9%、女性：17.5%)、「保育施設や児童クラブ（学童保育）等、保育サービスの充実」(男性10.9%、女性6.4%)となっている。

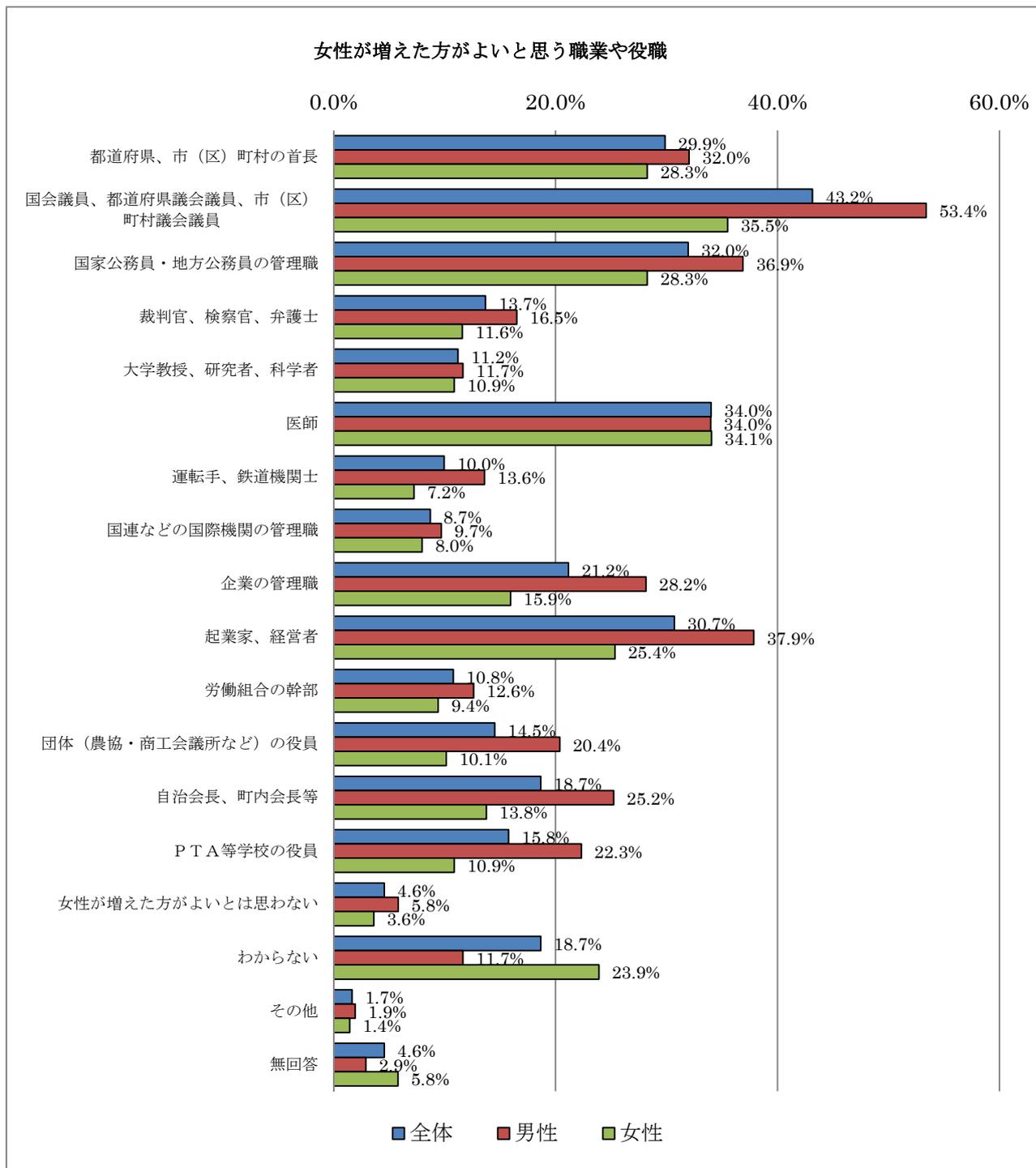
問19 女性が社会に進出していくことについて、どのように思いますか。(○は1つだけ)

全体では「能力とやる気があれば、どんどん社会進出するべき」(83.0%)の割合が最も高い。

男女別で大きな差はない。



問20 あなたは、次にあげるような職業や役職において、今後女性がもっと増えた方がよいと思うものはどれですか。(あてはまるものすべてに○)



全体では「国会議員、都道府県議会議員、市（区）町村議会議員」（43.2%）の割合が最も高く、次いで「医師」（34.0%）、「国家公務員・地方公務員の管理職」（32.0%）、「起業家、経営者」（30.7%）、「都道府県、市（区）町村の首長」（29.9%）と続いている。

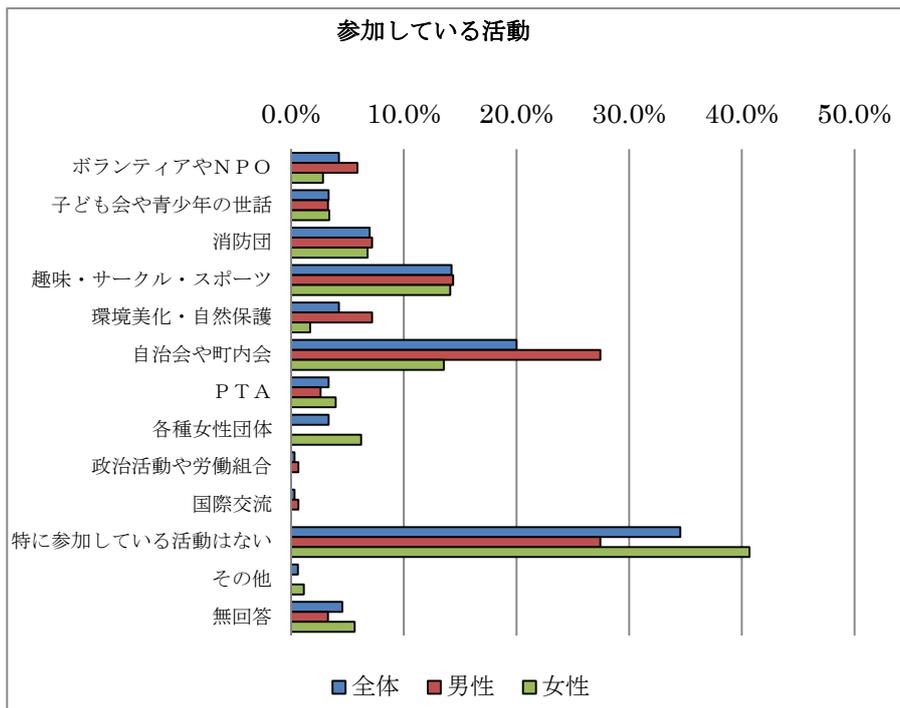
男女で差が大きいのは「国会議員、都道府県議会議員、市（区）町村議会議員」（男性：53.4%、女性：35.5%）で17.9ポイントの差がある。

5 地域・社会活動に対する意識

問2 1 現在、職業以外であなたが参加している活動はありますか。
(あてはまるものすべてに○)

全体では「特に参加している活動はない」(34.5%)が最も多く、次いで「自治会や町内会」(20.0%)、「趣味・サークル・スポーツ」(14.2%)と続く。

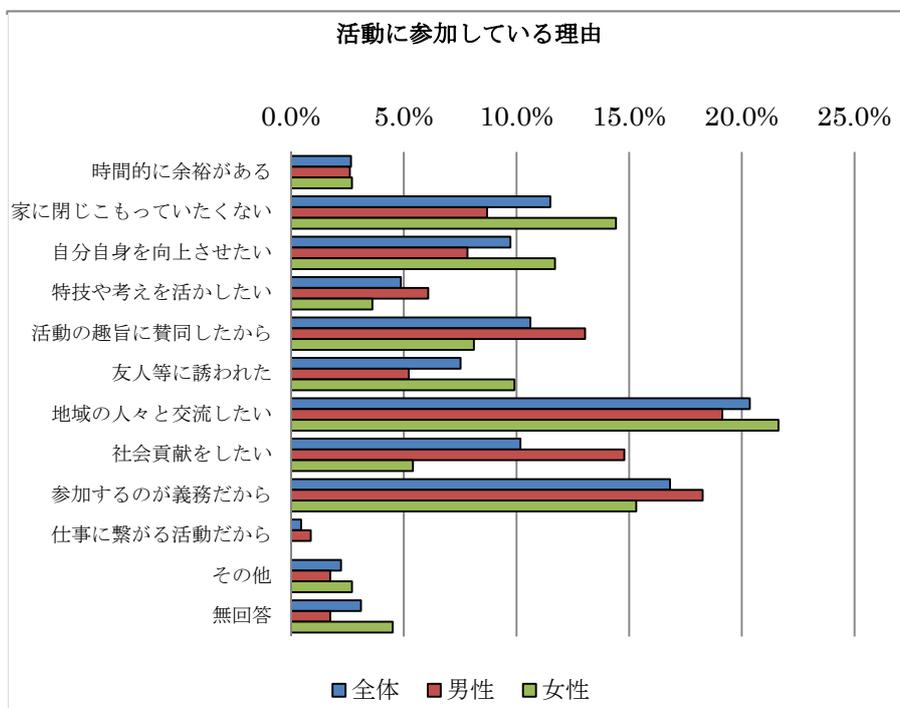
男女別では、男性は「特に参加している活動はない」「自治会や町内会」(ともに27.5%)が最も多い。女性は「特に参加している活動はない」(40.7%)が最も多く、次いで「趣味・サークル・スポーツ」(14.1%)、「自治会や町内会」(13.6%)と続く。



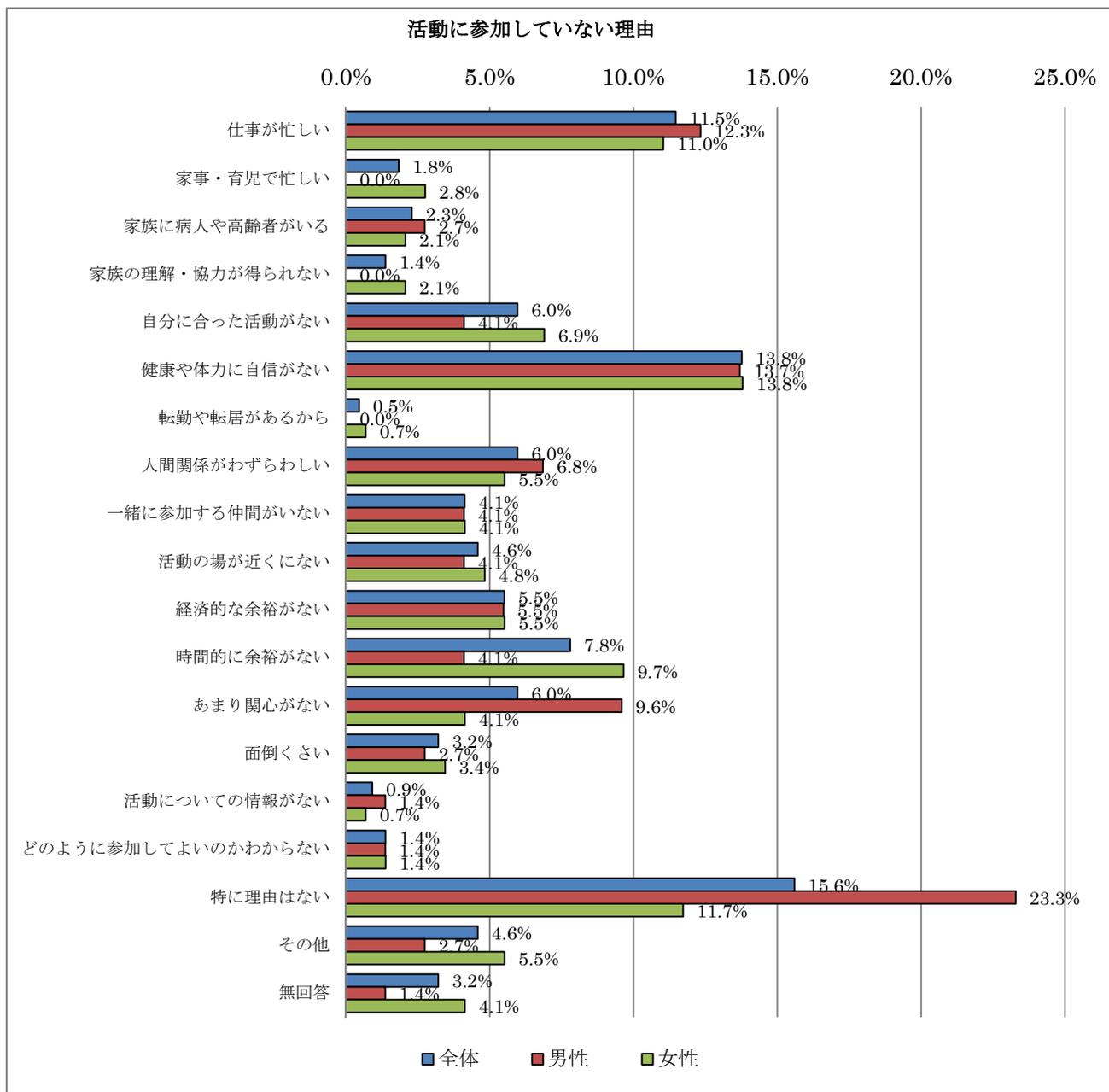
問2 2 問2 1で「1～10」に○を付けた方にお伺いします。
活動に参加している理由は何ですか。(○は3つまで)

全体では「地域の人々と交流したい」(20.4%)が最も多く、次いで「参加するのが義務だから」(16.8%)、「家に閉じこもってたくない」(11.5%)と続く。

男女別では、男女ともに「地域の人々と交流したい」(男性：19.1%、女性：21.6%)の割合が最も高い。男女とも次いで「参加するのが義務だから」(男性：18.3%、女性：15.3%)となり、男性は次いで「社会貢献をしたい」(14.8%)と続く。女性では、次いで「家に閉じこもってたくない」(14.4%)と続く。



問23 問21で「11 特に参加している活動はない」に○を付けた方にお伺いします。
活動に参加していない理由は何ですか。(○は3つまで)



全体では「特に理由はない」(15.6%)の割合が最も高く、次いで「健康や体力に自信がない」(13.8%)、「仕事が忙しい」(11.5%)と続く。

男性では「特に理由はない」(23.3%)の割合が最も高く、次いで「健康や体力に自信がない」(13.7%)、「仕事が忙しい」(12.3%)と全体と同じ理由が続く。

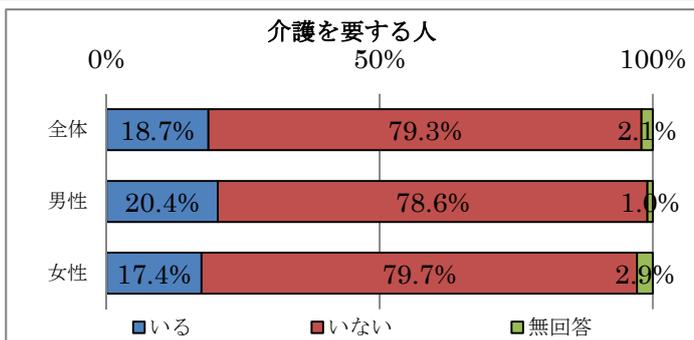
女性では「健康や体力に自信がない」(13.8%)の割合が最も高く、次いで「特に理由はない」(11.7%)、「仕事が忙しい」(11.0%)と続く。「特に理由はない」の割合を男性と女性で比べてみると11.6ポイントの差がある。

6 介護に対する意識

問24 現在、家族の中に介護を要する人はいますか。(○は1つだけ)

全体では「介護を要する人がいる」の割合が18.7%、「介護を要する人がいない」の割合が79.3%。

男女別でもほぼ同じ比率になっている。

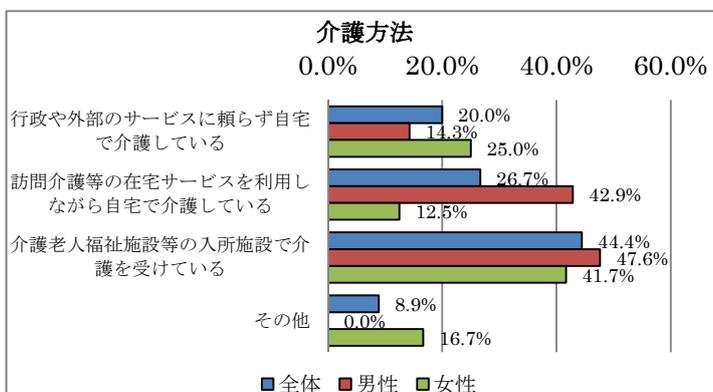


問25 問24で「1 いる」に○を付けた方にお伺いします。(○は項目ごとに1つ)

- ①どのように介護をしていますか。
- ②主に誰が介護をしていますか。

【①介護方法】

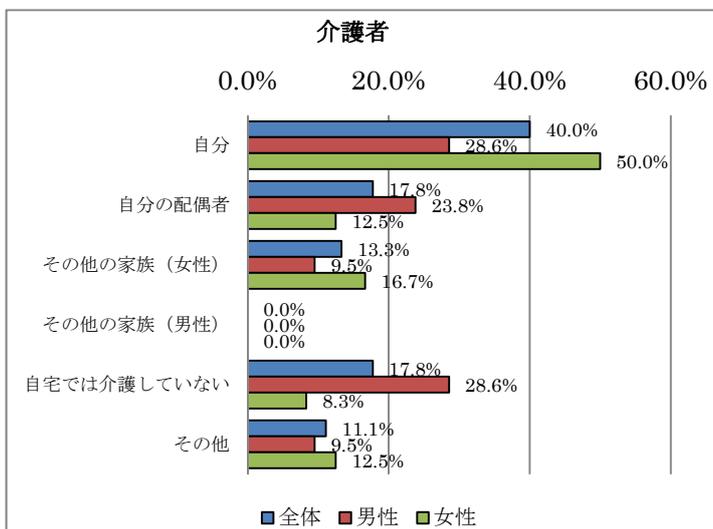
全体では「介護老人福祉施設等の入所施設で介護を受けている」(44.4%)の割合が最も高く、次いで「訪問介護等の在宅サービスを利用しながら自宅で介護している」(26.7%)、「行政や外部のサービスに頼らず自宅で介護している」(20.0%)と続く。



【②介護者】

男性では「自分」「自宅では介護していない」(ともに28.6%)の割合が最も高く、次いで「自分の配偶者」(23.8%)と続く。

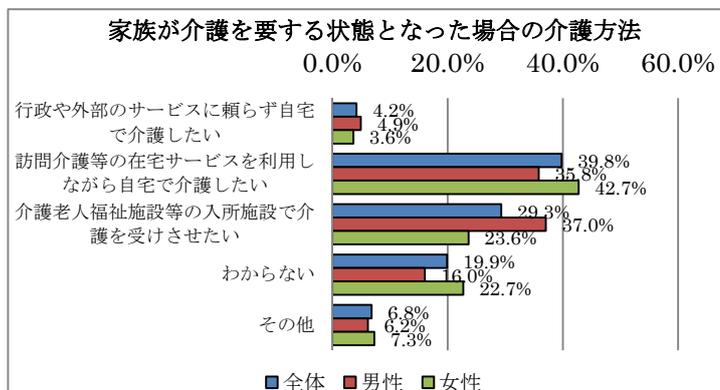
女性では「自分」(50.0%)の割合が最も高く、次いで「その他の家族(女性)」(16.7%)、「自分の配偶者」「その他」(ともに12.5%)と続いている。



問26 問24で「2 いなし」に○を付けた方にお伺いします。
 将来、家族が介護を要する状態となった場合についてどうなと思いますか。
 (○は項目ごとに1つ)
 ①どのように介護をしたいと思いますか。
 ②主に誰が介護をすると思いますか。

【①介護を要する状態となった場合の
 介護方法】

全体では「訪問介護等の在宅サービスを利用しながら自宅で介護したい」(39.8%)の割合が最も高く、次いで「介護老人福祉施設等の入所施設で介護を受けさせたい」(29.3%)、「わからない」(19.9%)と続く。

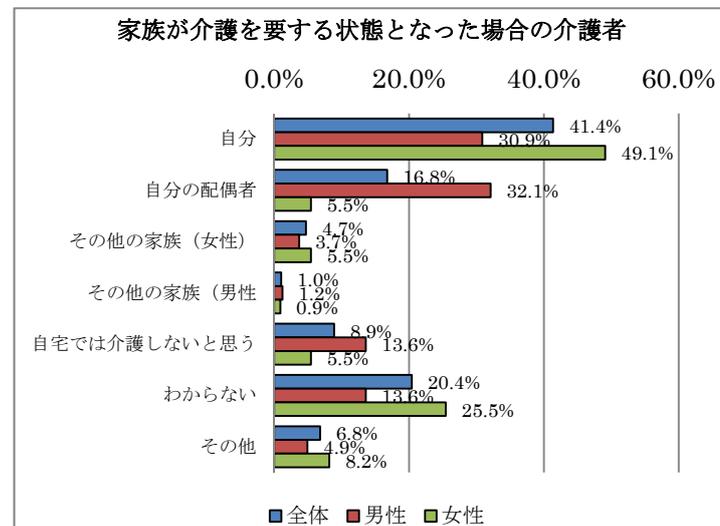


【②介護を要する状態となった場合の
 介護者】

男性では「自分の配偶者」(32.1%)の割合が最も高く、次いで「自分」(30.9%)と続く。

女性では「自分」(49.1%)の割合が最も高く、次いで「わからない」(25.5%)と続いている。

「自分の配偶者」の割合が男性では32.1%であるのに対し、女性では5.5%となっている。

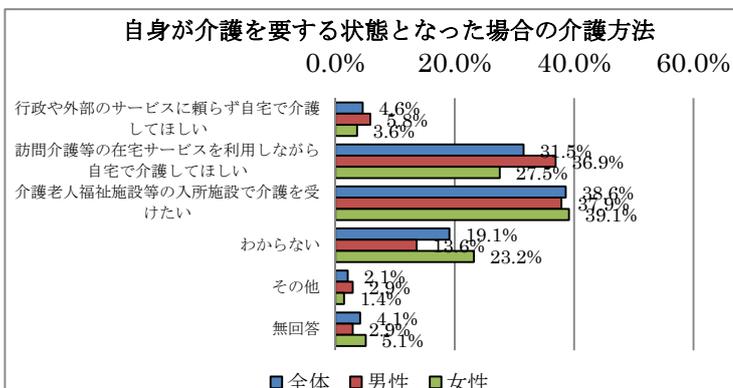


問 27 もし、あなた自身が介護を要する状態となった場合についてお伺いします。
(○は項目ごとに1つ)

- ①どのように介護してほしいですか。
- ②主に誰に介護してほしいですか。

【①自身が介護を要する状態となった場合の介護方法】

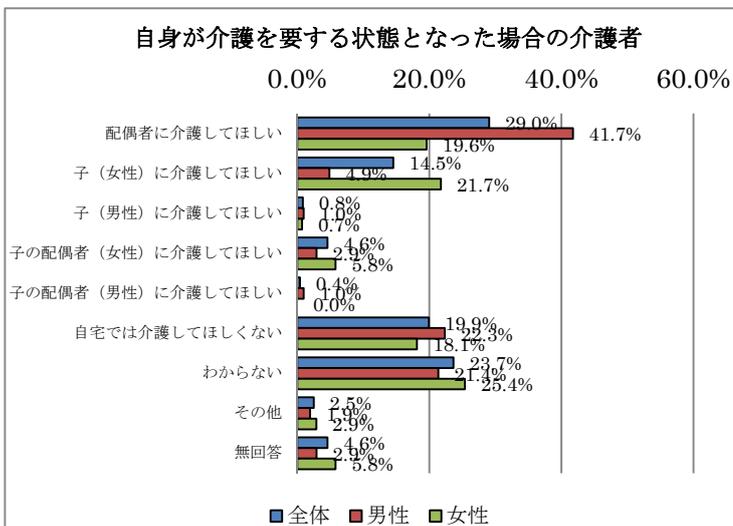
全体では「介護老人福祉施設等の入所施設で介護を受けたい」(38.6%)の割合が最も高く、次いで「訪問介護等の在宅サービスを利用しながら自宅で介護してほしい」(31.5%)、「わからない」(19.1%)と続く。



【②自身が介護を要する状態となった場合の介護者】

男性では「配偶者に介護してほしい」(41.7%)の割合が最も高く、次いで「自宅では介護してほしくない」(22.3%)、「わからない」(21.4%)と続く。

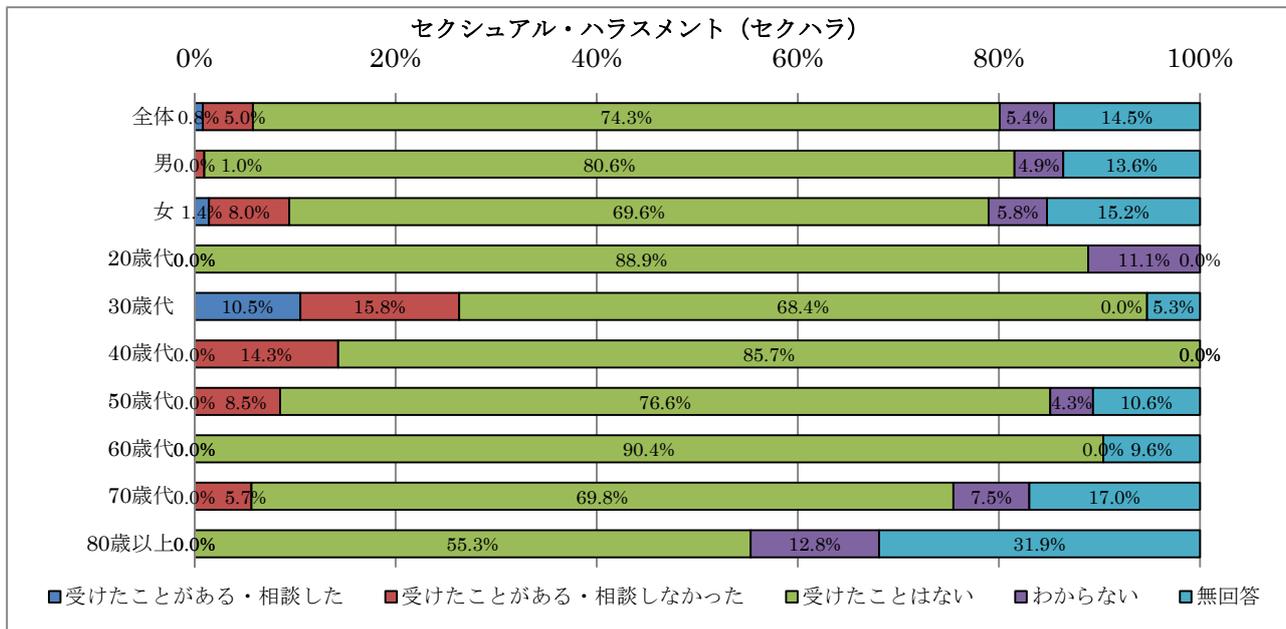
女性では「わからない」(25.4%)の割合が最も高く、次いで「子(女性)に介護してほしい」(21.7%)、「配偶者に介護してほしい」(19.6%)、「自宅では介護してほしくない」(18.1%)と続いている。



7 男女の人権に対する意識

問28 あなたは、これまでに次のような被害を受けたことがありますか。
(○は項目ごとに1つだけ)

①セクシュアル・ハラスメント (セクハラ)



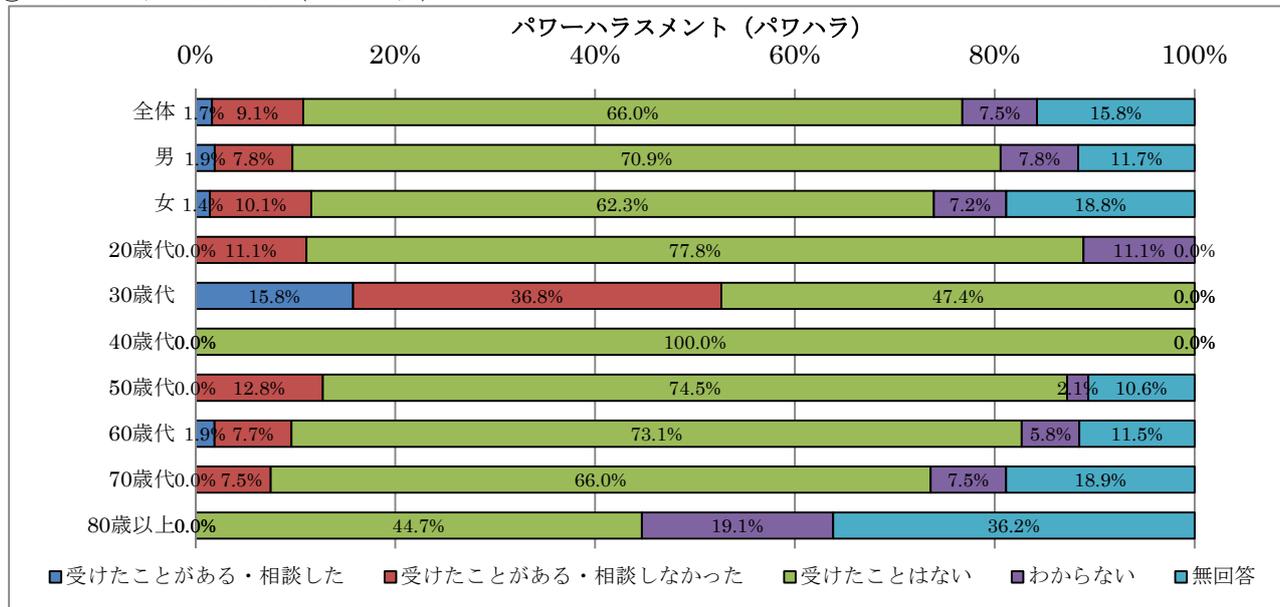
全体では「受けたことがある」は5.8%、「受けたことはない」は74.3%の割合である。

男女別では男性が1.0%、女性が9.4%となっていて、女性の割合が高い。

「受けたことがある」は30歳代(26.3%)、40歳代(14.3%)の割合が高い。

「受けたことがある」の中で「相談した」は14.3%、「相談しなかった」は85.7%である。

②パワーハラスメント (パワハラ)



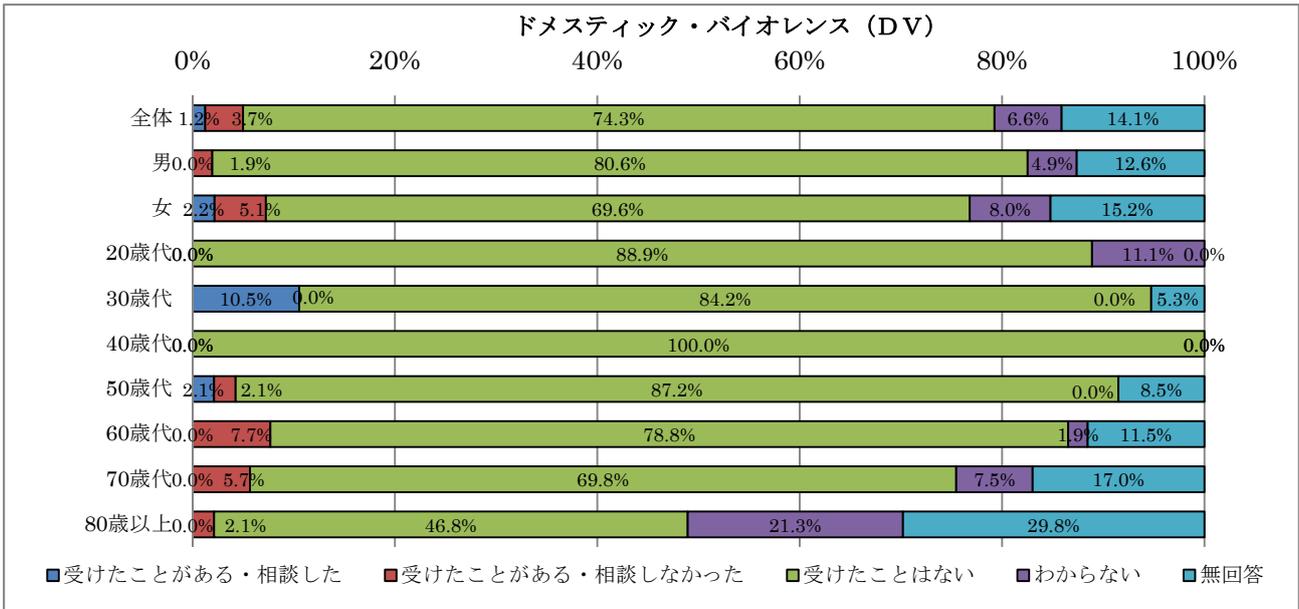
全体では「受けたことがある」は10.8%、「受けたことはない」は66.0%の割合である。

男女別では男性が9.7%、女性が11.5%となっていて、男女による差異はほぼない。

「受けたことがある」は30歳代(52.6%)で特に高くなっている。

「受けたことがある」の中で「相談した」は15.4%、「相談しなかった」は84.6%である。

③ドメスティック・バイオレンス (DV)



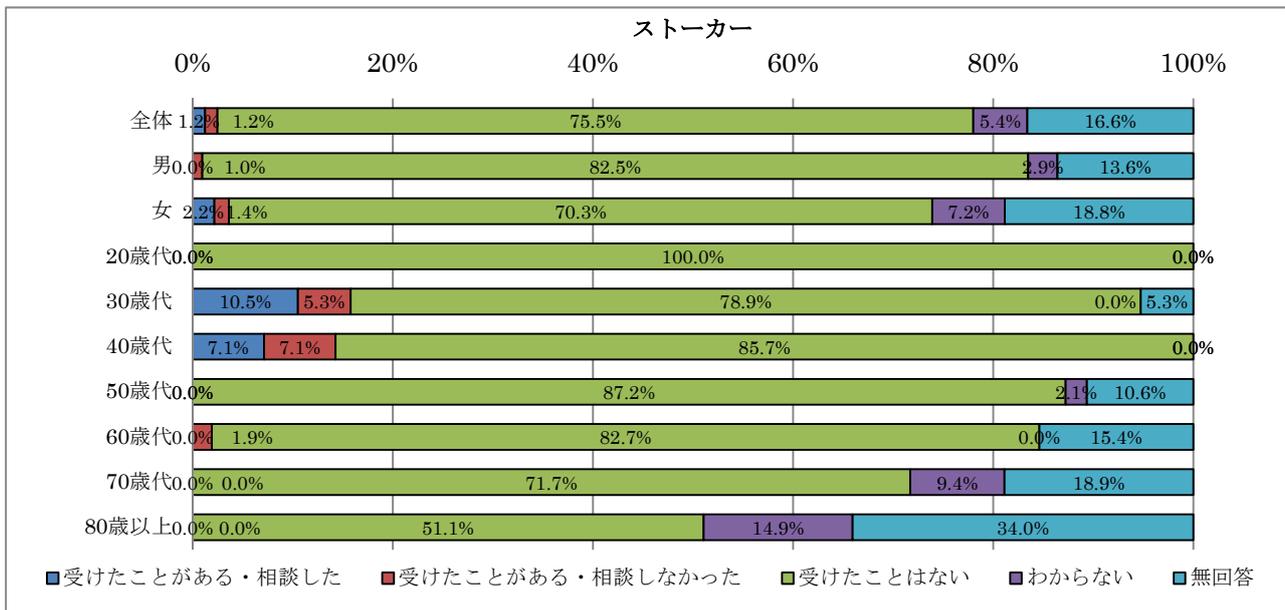
全体では「受けたことがある」は4.9%、「受けたことはない」は74.3%の割合である。

男女別では男性が1.9%、女性が7.2%となっていて、女性の割合が高い。

「受けたことがある」は30歳代(10.5%)、60歳・70歳代5%を上回っている。

「受けたことがある」の中で「相談した」は25.0%、「相談しなかった」は75.0%である。

④ストーカー



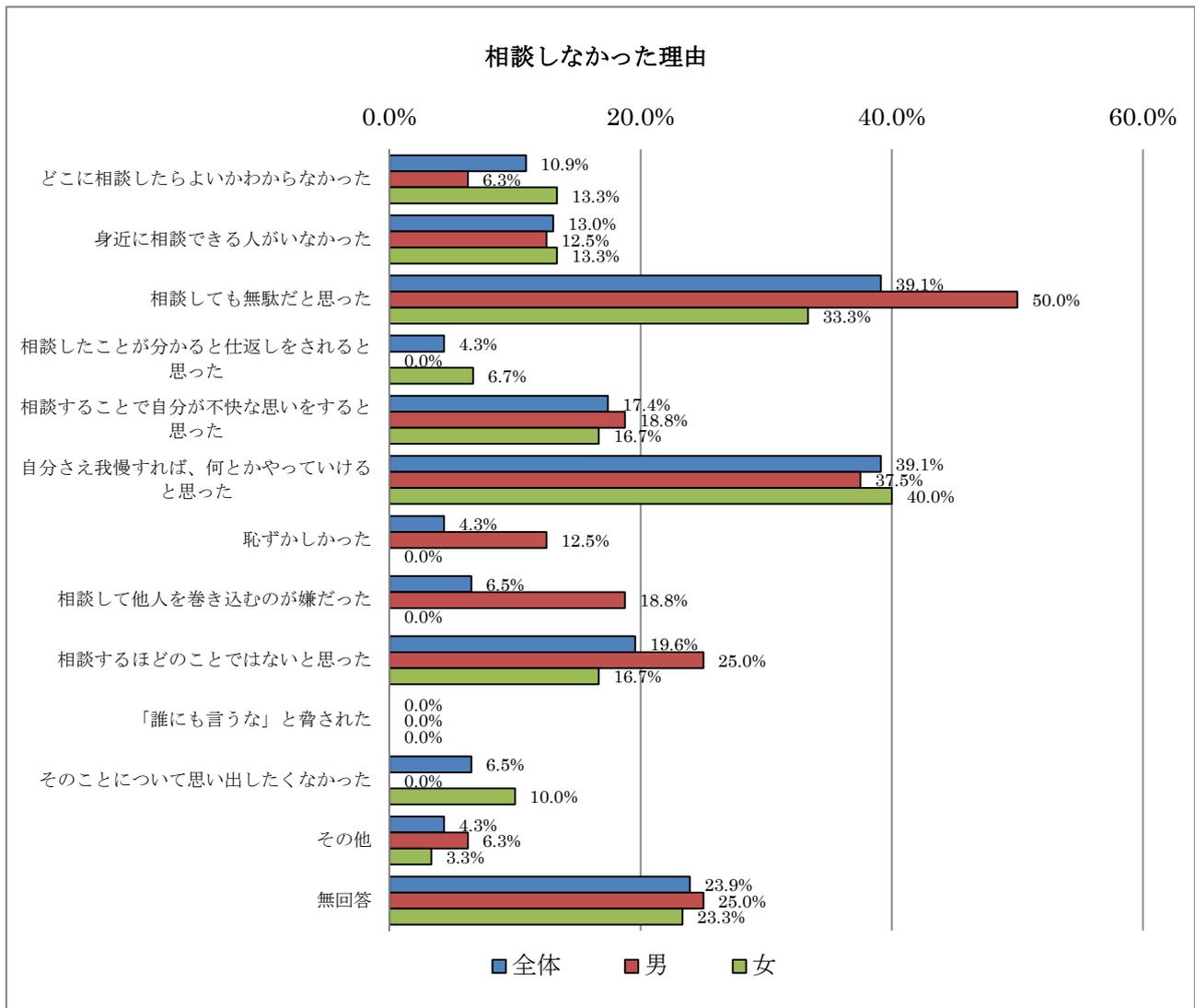
全体では「受けたことがある」は2.4%、「受けたことはない」は75.5%の割合である。

男女別では男性が1.0%、女性が3.6%となっていて、女性の割合が高いが全体的には低い割合となっている。

「受けたことがある」は30歳代(15.8%)、40歳代(14.2%)の割合が高い。

「受けたことがある」の中で「相談した」「相談しなかった」の割合はともに50.0%である。

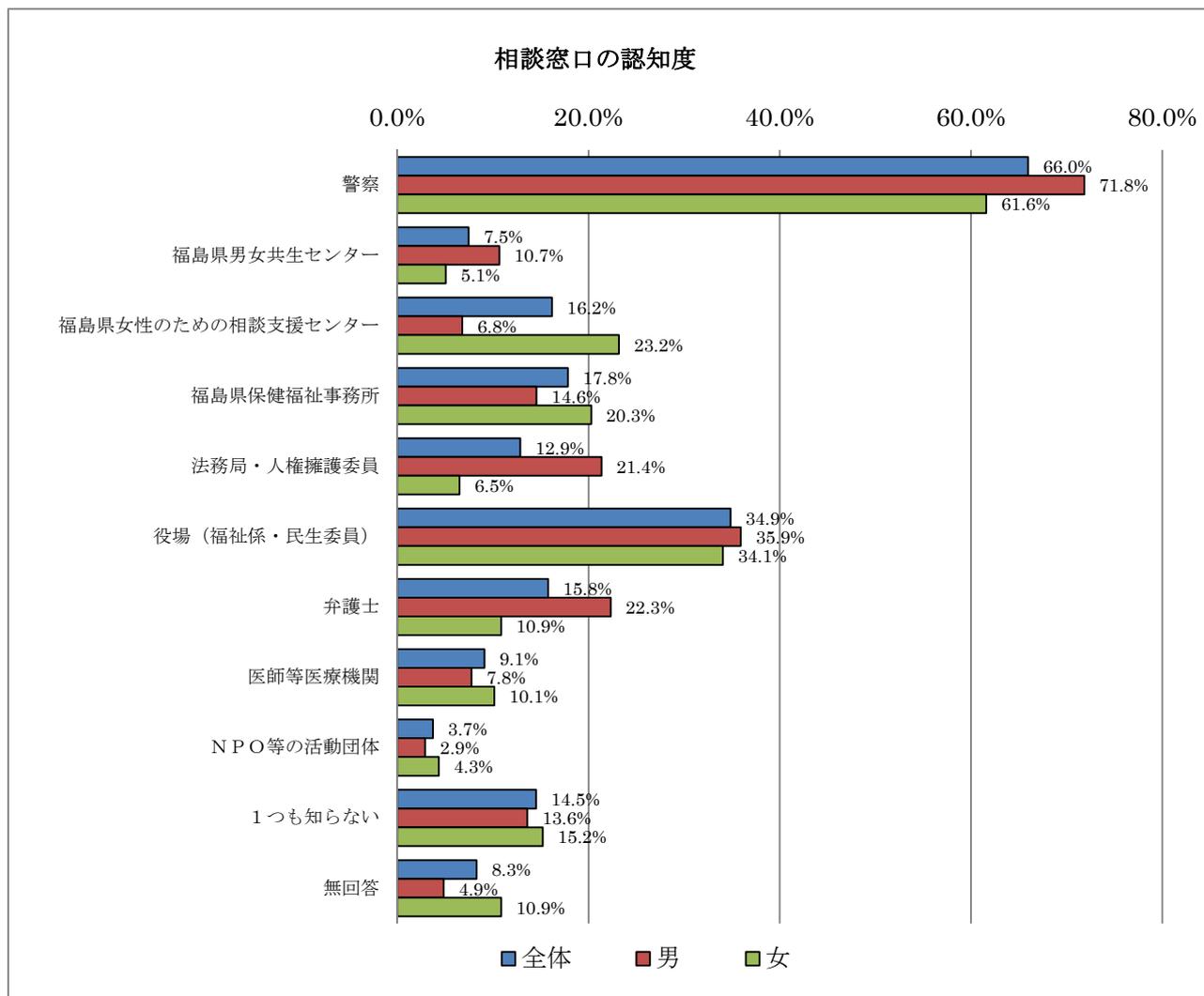
問29 問28で①～④のいずれかに「2」と回答した方に伺います。
相談しなかった理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)



全体では「相談しても無駄だと思った」「自分さえ我慢すれば、何とかやっ
ていけると思った」（ともに39.1%）の割合が最も高く、次いで「相談するほどのことではないと思
った」（19.6%）、「相談することで自分が不快な思いをす
ると思った」（17.4%）と続いている。（無回答除く）

男女別では男性が「相談しても無駄だと思った」（50.0%）の割合が最も高く、次いで「自分さ
え我慢すれば、何とかやっ
ていけると思った」（37.5%）となっている。女性では、「自分さえ我慢す
れば、何とかやっ
ていけると思った」（40.0%）の割合が最も高く、次いで「相談しても無駄だと思
った」（33.3%）となっている。

問30 あなたや身近な人がセクハラやDVを受けたときの相談窓口について、次にあげるものの中で知っているものはありますか。(あてはまるものすべてに○)

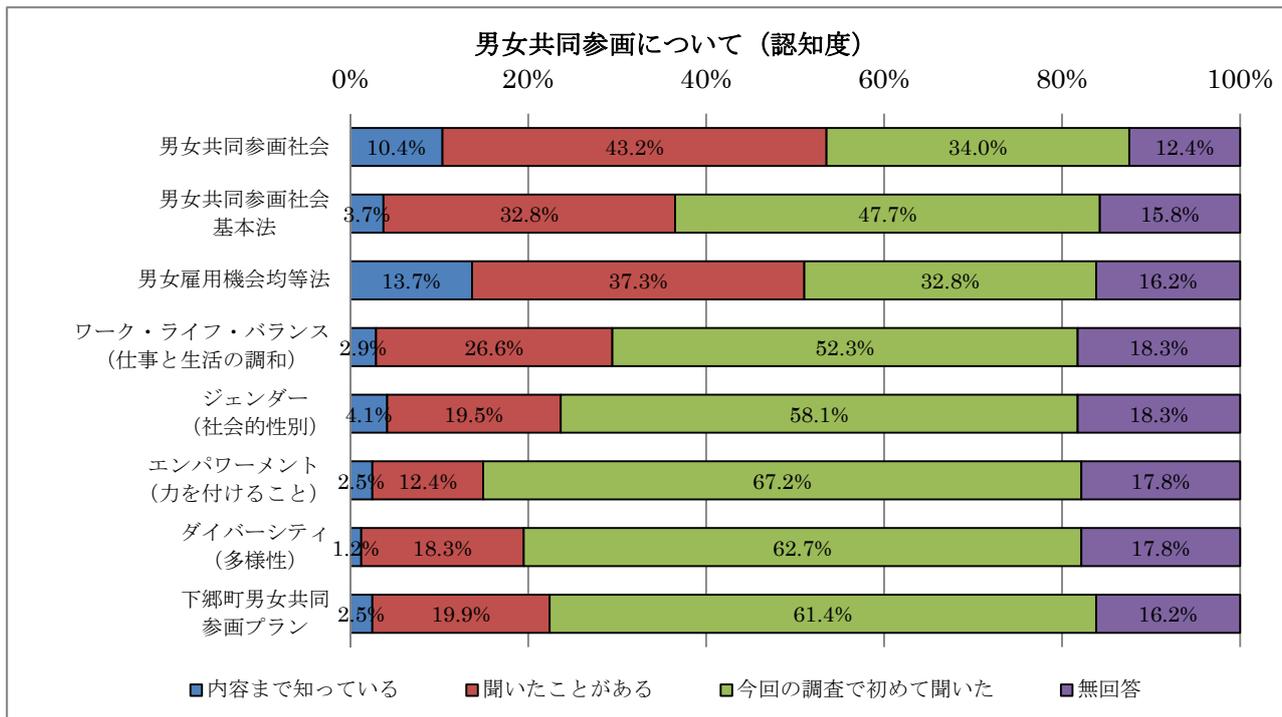


全体では「警察」(66.0%)の割合が最も高く、次いで「役場(福祉係・民生委員)」(34.9%)、「福島県保健福祉事務所」(17.8%)と続いている。「1つも知らない」の割合は14.5%となっている。

男女別では「福島県女性のための相談支援センター」の割合が男性では6.8%、女性が23.2%と16.4ポイント女性が上回っている。「法務局・人権擁護委員」の割合が男性では21.4%、女性では6.5%と14.9ポイント、「弁護士」の割合が男性では22.3%、女性では10.9%と11.4ポイント男性が上回っている。

8 男女共同参画の認知度

問31 男女共同参画に関する次の言葉について、どの程度知っていますか。
(○は項目ごとに1つ)



問31で「内容まで知っている」の割合が最も高いのは「男女雇用機会均等法」（13.7%）、次いで「男女共同参画社会」（10.4%）で、あとは軒並み5%以下となっており、全体として低い割合となっている。

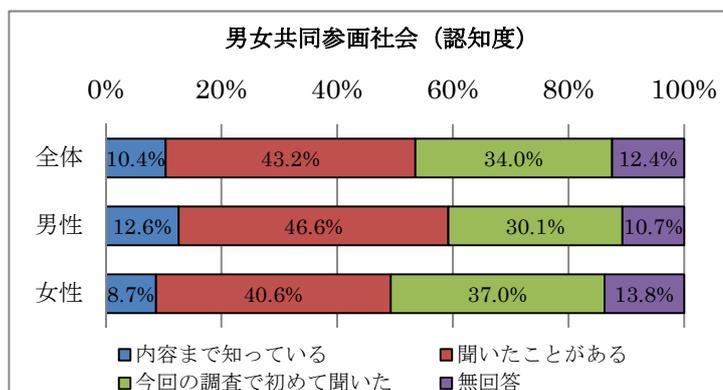
「聞いたことがある」の割合が最も高いのは「男女共同参画社会」（43.2%）、次いで「男女雇用機会均等法」（37.3%）、「男女共同参画社会基本法」（32.8%）と続いている。

「今回の調査で初めて聞いた」の割合が最も高いのは「エンパワーメント（力を付けること）」（67.2%）、次いで「ダイバーシティ（多様性）」（62.7%）、「下郷町男女共同参画プラン」（61.4%）と続いている。

①男女共同参画社会

全体では、「内容まで知っている」が10.4%、「聞いたことがある」が43.2%、「今回の調査で初めて聞いた」が34.0%となっている。

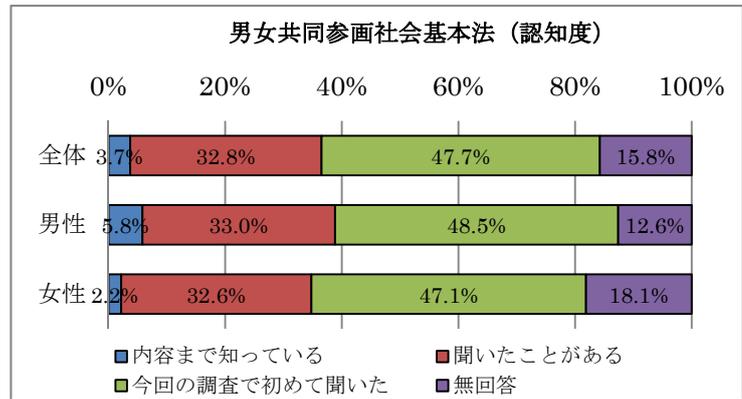
男女別では全体の傾向と同じ傾向となっている。



②男女共同参画社会基本法

全体では、「内容まで知っている」が3.7%、「聞いたことがある」が32.8%、「今回の調査で初めて聞いた」が47.7%となり、「今回の調査で初めて聞いた」の割合が高くなっている。

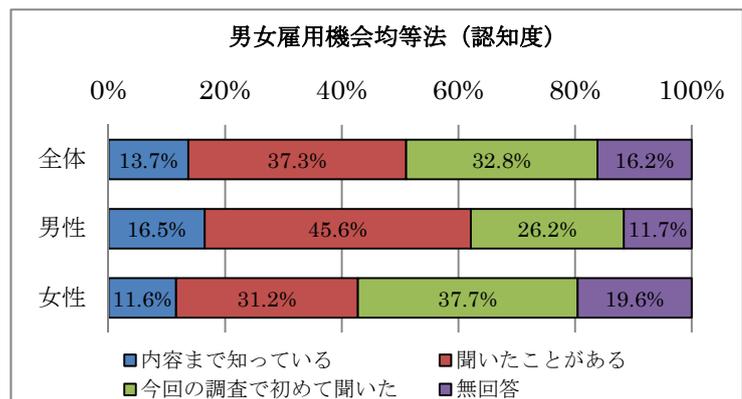
男女別では全体の傾向と同じ傾向となっており、男女間でも大きな差はない。



③男女雇用機会均等法

全体では、「内容まで知っている」が13.7%、「聞いたことがある」が37.3%、「今回の調査で初めて聞いた」が32.8%となっている。

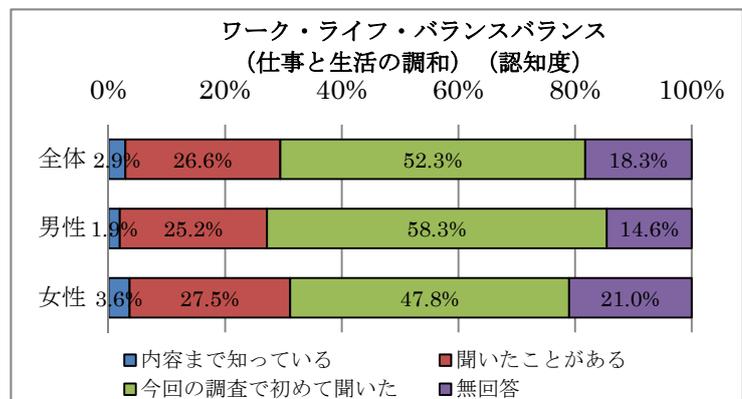
男女別では男性が「内容まで知っている」「聞いたことがある」の割合が合わせて62.1%であるのに対し、女性では42.8%で19.3ポイント低くなっている。



④ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）

全体では、「内容まで知っている」が2.9%、「聞いたことがある」が26.6%、「今回の調査で初めて聞いた」が52.3%となり、「今回の調査で初めて聞いた」の割合が高くなっている。

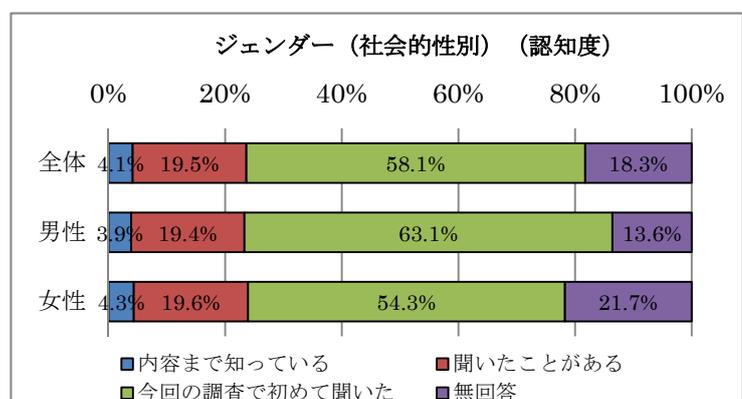
男女別では全体の傾向と同じ傾向となっている。



⑤ジェンダー（社会的性別）

全体では、「内容まで知っている」が4.1%、「聞いたことがある」が19.5%、「今回の調査で初めて聞いた」が58.1%となり、「今回の調査で初めて聞いた」の割合が高くなっている。

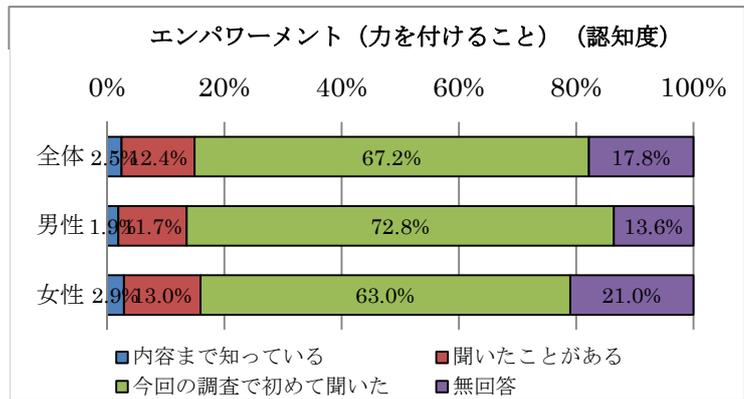
男女別では全体の傾向と同じ傾向となっている。



⑥エンパワーメント（力を付けること）

全体では、「内容まで知っている」が2.5%、「聞いたことがある」が12.4%、「今回の調査で初めて聞いた」が67.2%となり、「今回の調査で初めて聞いた」の割合が高くなっている。

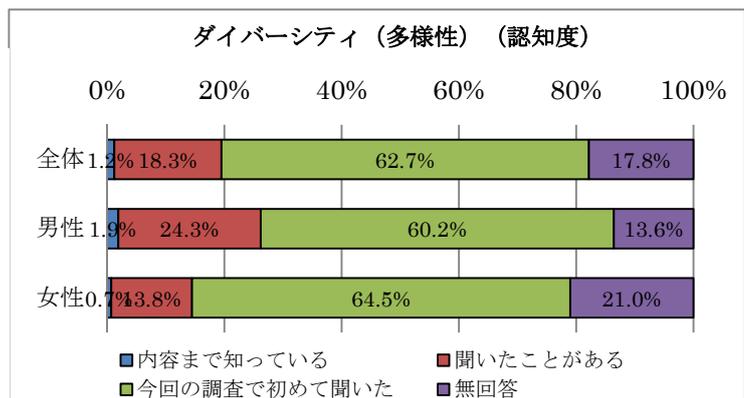
男女別では全体の傾向と同じ傾向となっている。



⑦ダイバーシティ（多様性）

全体では、「内容まで知っている」が1.2%、「聞いたことがある」が18.3%、「今回の調査で初めて聞いた」が62.7%となっている。

男女別では男性が「内容まで知っている」「聞いたことがある」の割合が合わせて26.2%であるのに対し、女性では14.5%で11.7ポイント低くなっている。

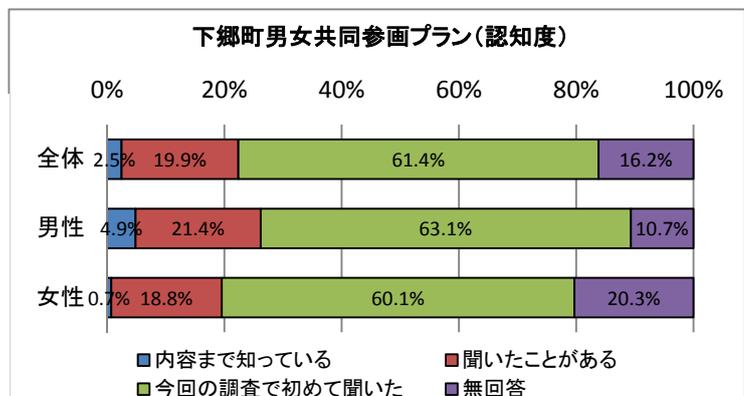


⑧下郷町男女共同参画プラン

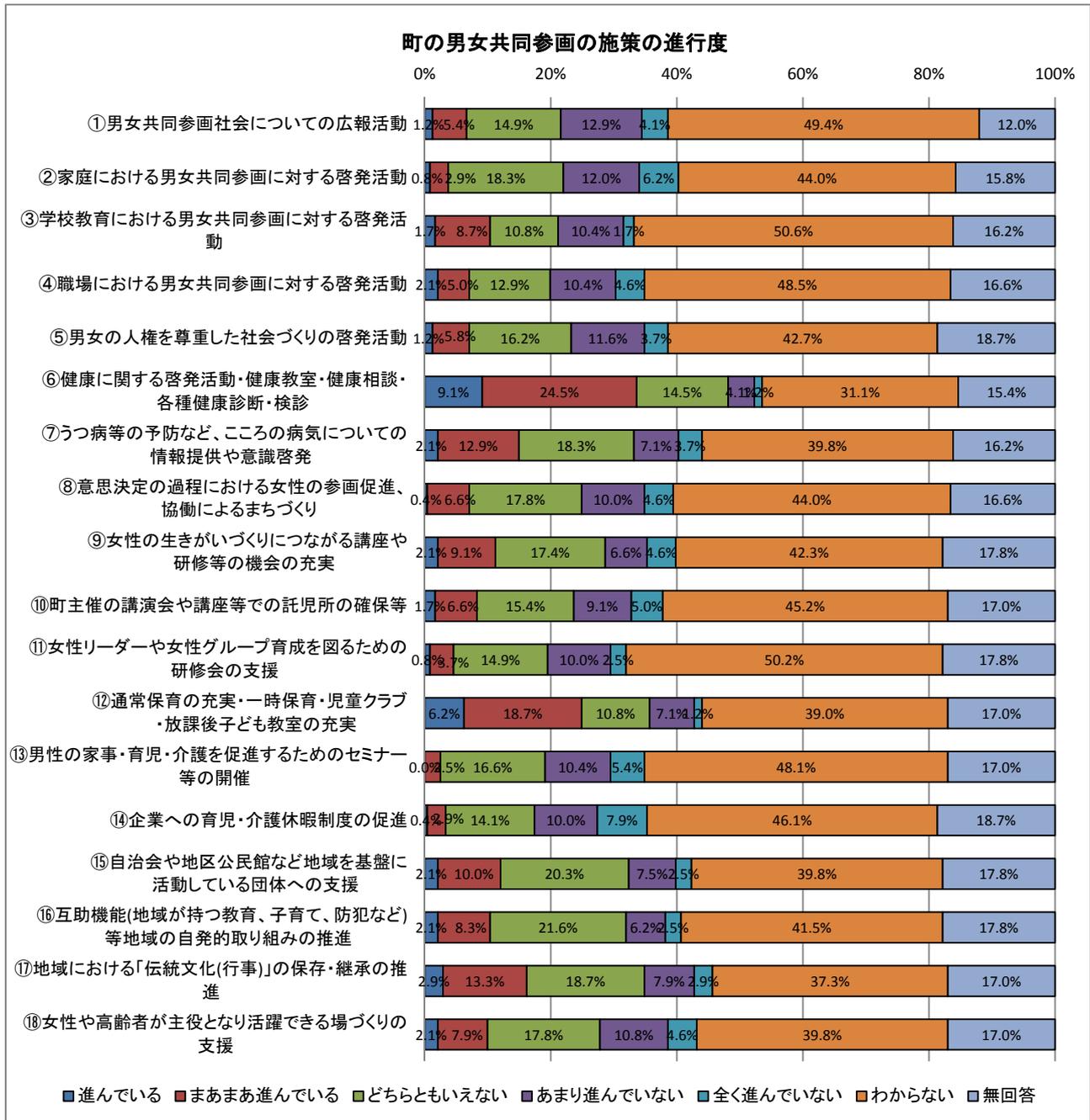
（計画期間：平成22年～平成32年）

全体では、「内容まで知っている」が2.5%、「聞いたことがある」が19.9%、「今回の調査で初めて聞いた」が61.4%となっている。

男女別では全体の傾向と同じ傾向となっており、男女間でも大きな差はない。



問3 2 下郷町の男女共同参画の施策はどの程度進んでいると思いますか。
(○は項目ごとに1つ)

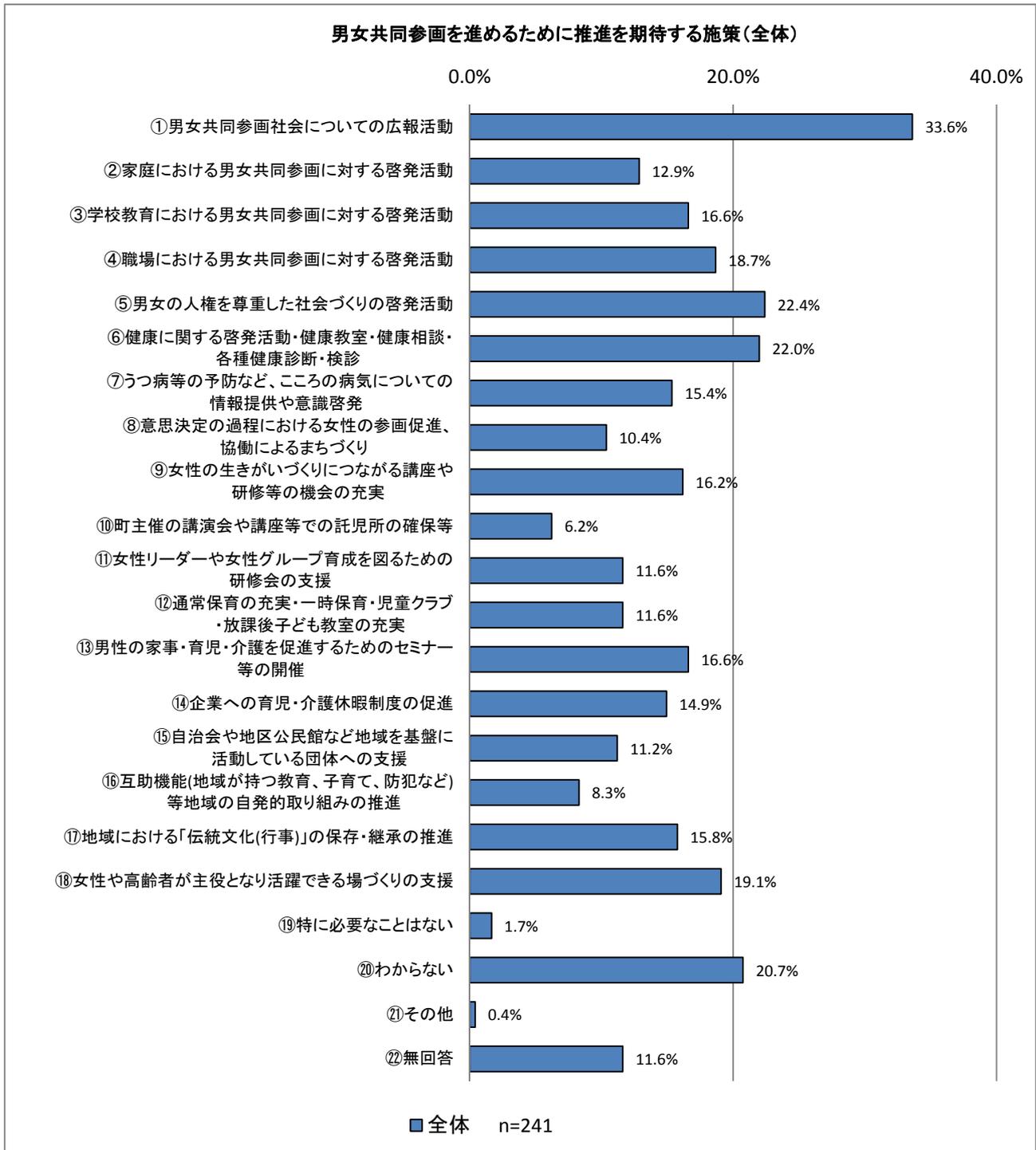


問3 2で「進んでいる」「まあまあ進んでいる」を合わせた割合が最も高いのは「健康に関する啓発活動・健康教室・健康相談・各種健康診断・検診」(33.6%)、次いで「通常保育の充実・一時保育・児童クラブ・放課後子ども教室の充実」(24.9%)と続いている。

「全く進んでいない」「あまり進んでいない」を合わせた割合が最も高いのは「家庭における男女共同参画に対する啓発活動」(18.2%)、次いで「企業への育児・介護休暇制度の促進」(17.9%)、「男女共同参画社会についての広報活動」(17.0%)と続いている。

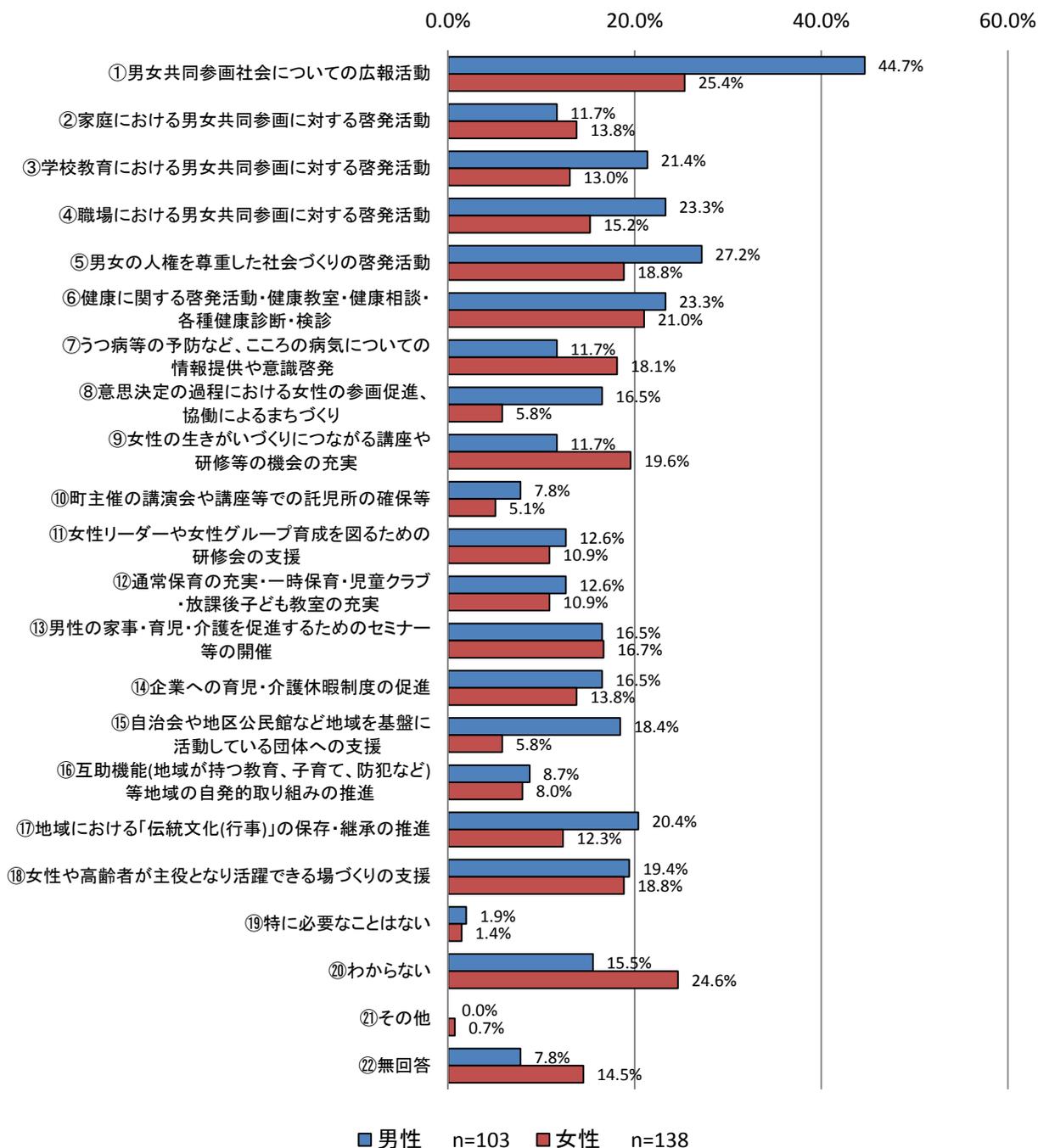
全体的に、どの設問についても「わからない」「無回答」の割合が高い。

問 3 3 問 3 2 の施策の中で男女共同参画を進めるために、下郷町は今後どの分野に力を入れたらよいと思いますか。(〇は5つまで)



全体では、「男女共同参画社会についての広報活動」(33.6%)の割合が最も高く、次いで「男女の人権を尊重した社会づくりの啓発活動」(22.4%)、「健康に関する啓発活動・健康教室・健康相談・各種健康診断・検診」(22.0%)、「わからない」(20.7%)、「女性や高齢者が主役となり活躍できる場づくりの支援」(19.1%)、「職場における男女共同参画に対する啓発活動」(18.7%)と続いている。以下、10%代で続き、町民のニーズは多岐に渡っている。

男女共同参画を進めるために推進を期待する施策(性別)



男女別では、男女ともに「男女共同参画社会についての広報活動」(男性：44.7%、女性：25.4%)の割合が最も高いが、男女間では19.3ポイントの差がある。

男性では、次いで「男女の人権を尊重した社会づくりの啓発活動」(27.2%)、「職場における男女共同参画に対する啓発活動」「健康に関する啓発活動・健康教室・健康相談・各種健康診断・検診」(ともに23.3%)、「学校教育における男女共同参画に対する啓発活動」(21.4%)、「地域における「伝統文化(行事)」の保存・継承の推進」(20.4%)と続く。

女性では、次いで「わからない」(24.6%)、「健康に関する啓発活動・健康教室・健康相談・各種健康診断・検診」(21.0%)、「男女の人権を尊重した社会づくりの啓発活動」「女性や高齢者が主役となり活躍できる場づくりの支援」(ともに18.8%)と続く。

Ⅲ 自由意見のまとめ

※同じ内容については整理しています。

問16 その他の意見

意見内容	年代・性別
相手が見つからない	80歳以上・男性
女が強くなった為	40代・男性
産婦人科不足	60代・男性
若い人の出逢いの場が少ない	60代・男性
世相？風潮？	30代・女性
女性の自立が多くなると婚姻率も下がるから、男性中心から女性中心へ変化している為？	50代・男性
男女共同参画社会	20代・男性

問17 その他の意見

意見内容	年代・性別
仕事したい人はすればいいし、したくなければしなければいい。	20代・女性
女性が仕事できる環境をつくる努力を。	80歳以上・男性
したい人はすればいいし、主婦になりたい人は主婦でいいと思う。	30代・女性
個人の資質、考え方で仕事をして、しなくてもよい。	50代・女性
人によって出来るのであればした方が良くと思う。	60代・女性
一度辞めても復職できる職場であって欲しい。	70代・男性
1～6の自分に合うものを個々が選択すればよい。	60代・女性
子育ては女性だけ？男性の協力は必須！	60代・男性
仕事をしないのは理想だが今の世の中、共働きしないと生活が大変。	70代・女性
特段なにも思わない。性別ではなく家族の問題	20代・男性

問18 その他の意見

意見内容	年代・性別
交通問題がある	80歳以上・女性
介護制度を使っても金銭負担が多すぎる。老人が長生きし過ぎていて、仕事が出来ない状況を作っている。	50代・女性
男女雇用機会均等法の定着、浸透	60代・男性
職場に育児、学童保育を持つ。働きながら顔が見える環境。	50代・女性
完璧な平等ではなく、適材適所の配置。	20代・男性

問19 その他の意見

意見内容	年代・性別
家庭は女性がするものと考えている男性がいる限り無理。	70代・男性
家族の協力、社会環境の改善	80歳以上・女性

問20 その他の意見

意見内容	年代・性別
塗装業	30代・女性
色々やれば良いと思う	40代・男性
適任・適職であったら男女関係ない。但し、現実的には女性は家庭と考える男性が多いから無理。	70代・男性
女性は家族がいると家事におわれて仕事オンリーではいけないと思う。	70代・女性

◇男女共同参画への意見・要望

意見内容	年代・性別
全町民の意向を聞く必要があります。	80歳以上・女性
町当局の推進に期待します。	80歳以上・男性
10年計画は長すぎないか？5～6年程度の計画とし、実施可能・重点をしばり実施してください。	80歳以上・男性
商工会女性部、JA女性部、婦人会の合同で、女性の起業家経営者育成などの研修の場があれば出席したい。	60代・女性
女性のリーダーが必要。女性のリーダーを育てるための研修などを行って欲しいです。	30代・女性
男女共同参画についての広報・啓発等の機会を多くし、基本的な内容を共通理解できるよう、みんなに認識してもらうようにして欲しい。全てわかりやすく、複雑にしない。	80歳以上・女性
男女は共に助け合い、認め合いながら社会づくりに生きることが大切ではないかと思う。明るい社会は、女性参画が基本だと思います。	80歳以上・男性
アンケートだけでなく、現実に施策が進められるようお祈りいたします！	50代・女性
学校までは男女関係なく活動しているのに、社会に出た途端に男女同じではないんだということを実感しました。	30代・女性
よくわかりません。	50代・男性
実際こんなに多く分野が分かれている活動をしているとは思いませんでした。どんな事も相談できる窓口が1つあって、そこから色々な分野に分かれて行われているのだと思いますが、人口や年齢など時代に合わせた活動に臨機応変に対応していただけたら良いのではないかと思います。	50代・女性
「男女共同参画」という言葉が、世間で「全分野における完全な男女平等」かのように認識又は使用されているような印象があります。本質は「男女が互いに尊敬し合う」ということだと思いますので、その点をしっかりと啓発していただければと思います。例えば、工事現場では力のある男性の方が向いているでしょうし、女性の看護をする看護師は女性の方が適していると思います。一方で、お茶出しなどを無条件で女性にやらせることや、業務量を男性に多く割り振ることは差別です。このような差別と区別（適所適材）の違いについても啓発すべきと考えます。また、少子化の一因は男女共同参画も間違いなくあると思うので、無責任に男女共同だけを訴えるのではなく、少子化とのバランスも考えていかなければならないと思います。	20代・男性

IV 調查票

◇あなたご自身や家族のことについてお伺いします。

問1 あなたの性別はどれにあたりますか。(○は1つだけ)

1 男性	2 女性
------	------

問2 あなたの年齢はどれにあてはまりますか。(○は1つだけ)

1 20～29歳	3 40～49歳	5 60～69歳	7 80歳以上
2 30～39歳	4 50～59歳	6 70～79歳	

問3 あなたが現在お住まいの地区はどこですか。(○は1つだけ)

1 檜原地区	2 旭田地区	3 江川地区
--------	--------	--------

問4 あなたは下郷町にお住まいになって何年(通算)になりますか。(○は1つだけ)

1 1年未満	4 5年以上～10年未満
2 1年以上～3年未満	5 10年以上～20年未満
3 3年以上～5年未満	6 20年以上

問5 あなたの職業を教えてください。(○は主なもの1つだけ)

①自営業 (家族従事者含む)	1 農林漁業	2 商工サービス業	3 自由業	
②勤めている	4 役員・管理職	5 専門技術職	6 事務職	
	7 労務職	8 販売・サービス業	9 保安職	
③その他	10 専業主婦・専業主夫	11 学生	12 無職	13 その他

問6 この質問は 問5で「②勤めている」を選んだ方のみお答えください。それ以外の方は、問7へお仕事は、次のいずれにあてはまりますか。(○は主なもの1つだけ)

1 常勤(フルタイム)	2 パートタイム(パート、アルバイト)	3 その他
-------------	---------------------	-------

問7 あなたは、結婚していますか。(○は1つだけ)

- | | | |
|-----------|-------------------------|--------|
| 1 結婚している | 3 結婚していないが、パートナーと暮らしている | |
| 2 結婚していない | 4 離別した | 5 死別した |

問8 この質問は 問7で「1・3」を選んだ方のみお答えください。それ以外の方は、問9へあなたは共働きですか。

- | | | |
|---------------------------|------------|-------|
| 1 共働きしている (いずれの勤務形態も含みます) | 2 共働きしていない | 3 その他 |
|---------------------------|------------|-------|

問9 あなたは、お子さんがいますか。(○は1つだけ)

- | | |
|------|-------|
| 1 いる | 2 いない |
|------|-------|

問10 あなたの世帯構成は、次のどれにあたりますか。

- | | | |
|--------------------|--------------------|------------------|
| 1 ひとり暮らし | 2 夫婦のみ (一世代家族) | 3 親と未婚の子ども (核家族) |
| 4 親と子ども夫婦 (二世世代家族) | 5 親と子どもと孫 (三世世代家族) | |
| 6 その他 (具体的に : | |) |

◇男女の地位に関する意識についてお伺いします。

問1 1 あなたは次の分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。(○は項目ごとに1つ)

	男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない
①家庭生活	1	2	3	4	5	6
②職場	1	2	3	4	5	6
③学校教育	1	2	3	4	5	6
④地域活動・社会活動	1	2	3	4	5	6
⑤政治の場	1	2	3	4	5	6
⑥法律・制度の上	1	2	3	4	5	6
⑦慣習・しきたり	1	2	3	4	5	6
⑧社会全体において	1	2	3	4	5	6

◇家庭生活についてお伺いします。

問1 2 家庭における役割分担について、あなたの現状に一番近いものは何ですか。(○は項目ごとに1つ)

	全部している	ほとんどしている	半分くらいしている	一部している	全くしていない	該当なし
①食事の準備	1	2	3	4	5	
②食事の後片付け	1	2	3	4	5	
③掃除	1	2	3	4	5	
④洗濯	1	2	3	4	5	
⑤買い物	1	2	3	4	5	
⑥家計の管理	1	2	3	4	5	
⑦子どもの世話・教育(※)	1	2	3	4	5	6
⑧介護・老親等の世話(※)	1	2	3	4	5	6
⑨地域の行事等への参加	1	2	3	4	5	

※⑦子どもの世話や⑧介護の対象となる人がいない場合は、「6 該当なし」に○を付けてください。

問1 3 あなたの生活において、**現実**として優先しているものは何ですか。また、**理想**として優先したいものは何ですか。(○は項目ごとに3つまで)

現実		理想	
1	仕事	1	仕事
2	家族や家庭生活	2	家族や家庭生活
3	個人の時間	3	個人の時間
4	地域活動や社会参加	4	地域活動や社会参加

問14 次にあげる結婚の考えについて、どのように思いますか。(○は項目ごとに1つ)

	そう思う	えはどちらかとい えはそう思う	えな い どちらともい	えな い どちらかとい えはそう思わ	そう思わない	わからない
①結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもどちらでもよい	1	2	3	4	5	6
②女性は、結婚したら、自分のことよりも、夫や子どもを中心に生活したほうがよい	1	2	3	4	5	6
③結婚して、相手に満足できないときは離婚すればよい	1	2	3	4	5	6
④今の社会では、離婚すると女性の方が不利である	1	2	3	4	5	6
⑤結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない	1	2	3	4	5	6

問15 あなたは、子どもにどの程度の教育を受けさせたいと思いますか。子どもがいない場合も(既に卒業等した場合)もいると仮定して、現在の親としての考えや希望をお答えください。

(○は項目ごとに1つ)

	中学校	高校	専門・専 修学校	短期 大学	大学	大学院	わから ない
①子どもが <u>女の子</u> の場合	1	2	3	4	5	6	7
②子どもが <u>男の子</u> の場合	1	2	3	4	5	6	7

問16 全国的に出生数が減少していますが、その理由は何だと思いませんか。

(○はあてはまるもの全て)

1 子どもの教育にお金がかかる	8 育児に心理的、肉体的負担がかかる
2 経済的に余裕がないから	9 保育施設や子育て支援サービスが整っていない
3 家がせまい	10 仕事をしながら子育てするのが難しい
4 自分の趣味と両立しない	11 結婚しないで子どもを持つのは抵抗がある
5 結婚年齢があがっている	12 子どもが欲しくない
6 結婚しない人が多い	13 わからない
7 育児の負担が女性にかかる	14 その他(具体的に:)

◇女性の社会進出についてお伺いします。

問17 女性が仕事をするることについて、どのように思いますか。(〇は1つだけ)

- 1 女性は仕事をしない方がよい
- 2 生涯にわたり、仕事をするのがよい
- 3 結婚するまでは、仕事をするのがよい
- 4 子どもができるまでは、仕事をするのがよい
- 5 子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をするのがよい
- 6 子育てや介護等必要でない時だけ、仕事をするのがよい
- 7 わからない
- 8 その他 ()

問18 今後、女性と男性がともに働き続けるために必要なことは何だと思えますか。(〇は3つまで)

- 1 職場において昇進や賃金等、労働条件面での男女差をなくす
- 2 労働時間の短縮や就業時間等、柔軟な勤務形態の導入
- 3 育児・介護休業の取得等職場環境の整備
- 4 退職後の再雇用制度の充実
- 5 保育施設や児童クラブ(学童保育)等、保育サービスの充実
- 6 介護施設や訪問介護・通所介護等、介護サービスの充実
- 7 女性自身の働き続けることに対する意識や意欲の向上
- 8 技能研修や職業訓練の機会の充実
- 9 家庭での役割分担・家族の理解
- 10 従来の社会意識を改める
- 11 特に必要なことはない
- 12 わからない
- 13 その他 ()

問19 女性が社会に進出していくことについて、どのように思いますか。(〇は1つだけ)

- 1 能力とやる気があれば、どんどん社会進出するべき
- 2 女性は社会進出をするべきではない
- 3 わからない
- 4 その他 ()

問20 あなたは、次にあげるような職業や役職において、今後女性がもっと増えた方がよいと思うものはどれですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 都道府県、市(区)町村の首長
- 2 国会議員、都道府県議会議員、市(区)町村議会議員
- 3 国家公務員・地方公務員の管理職
- 4 裁判官、検察官、弁護士
- 5 大学教授、研究者、科学者
- 6 医師
- 7 運転手、鉄道機関士
- 8 国連などの国際機関の管理職
- 9 企業の管理職
- 10 起業家、経営者
- 11 労働組合の幹部
- 12 団体(農協・商工会議所など)の役員
- 13 自治会長、町内会長等
- 14 PTA等学校の役員
- 15 女性が増えた方がよいとは思わない
- 16 わからない
- 17 その他()

◇地域・社会活動についてお伺いします。

問21 現在、職業以外であなたが参加している活動はありますか。(あてはまるものすべてに○)

1 ボランティアやNPOの活動	7 PTA活動
2 子ども会や青少年の世話	8 各種女性団体の活動
3 消防団の活動	9 政治活動や労働組合活動
4 趣味・サークル・スポーツ活動	10 国際交流活動
5 環境美化・自然保護活動	11 特に参加している活動はない
6 自治会や町内会の活動	12 その他 ()

問22 問21で「1～10」に○を付けた方にお伺いします。

活動に参加している理由は何ですか。(○は3つまで)

1 時間的に余裕がある	7 地域の人々と交流したい
2 家に閉じこもってたくない	8 社会貢献をしたい
3 自分自身を向上させたい	9 参加するのが義務だから
4 特技や考えを活かしたい	10 仕事に繋がる活動だから
5 活動の趣旨に賛同したから	11 その他 ()
6 友人等に誘われた	

問23 問21で「11 特に参加している活動はない」に○を付けた方にお伺いします。

活動に参加していない理由は何ですか。(○は3つまで)

1 仕事が忙しい	10 活動の場が近くにない
2 家事・育児で忙しい	11 経済的な余裕がない
3 家族に病人や高齢者がいる	12 時間的に余裕がない
4 家族の理解・協力が得られない	13 あまり関心がない
5 自分に合った活動がない	14 面倒くさい
6 健康や体力に自信がない	15 活動についての情報がない
7 転勤や転居があるから	16 どのように参加してよいのかわからない
8 人間関係がわずらわしい	17 特に理由はない
9 一緒に参加する仲間がいない	18 その他 ()

◇介護についてお伺いします。

問24 現在、家族の中に介護を要する人はいますか。(○は1つだけ)

- | | |
|------|-------|
| 1 いる | 2 いない |
|------|-------|

問25 問24で「1 いる」に○を付けた方にお伺いします。(○は項目ごとに1つ)
どのように介護をしていますか。

- | |
|--------------------------------|
| 1 行政や外部のサービスに頼らず自宅で介護している |
| 2 訪問介護等の在宅サービスを利用しながら自宅で介護している |
| 3 介護老人福祉施設等の入所施設で介護を受けている |
| 4 その他 () |

主に誰が介護していますか。(○は1つだけ)

- | |
|---------------|
| 1 自分 |
| 2 自分の配偶者 |
| 3 その他の家族(女性) |
| 4 その他の家族(男性) |
| 5 自宅では介護していない |
| 6 その他 () |

問26 問24で「2 いない」に○を付けた方にお伺いします。

将来、家族が介護を要する状態となった場合についてどうなると思いますか。(○は項目ごとに1つ)
どのように介護をしたいと思いますか。

- | |
|-------------------------------|
| 1 行政や外部のサービスに頼らず自宅で介護したい |
| 2 訪問介護等の在宅サービスを利用しながら自宅で介護したい |
| 3 介護老人福祉施設等の入所施設で介護を受けさせたい |
| 4 わからない |
| 5 その他 () |

主に誰が介護をすると思いますか。

- | |
|------------------|
| 1 自分だと思ふ |
| 2 自分の配偶者だと思ふ |
| 3 その他の家族(女性)だと思ふ |
| 4 その他の家族(男性)だと思ふ |
| 5 自宅では介護しないと思ふ |
| 6 わからない |
| 7 その他 () |

問27 もし、あなた自身が介護を要する状態となった場合についてお伺いします。

(○は項目ごとに1つ)

どのように介護してほしいですか。

- 1 行政や外部のサービスに頼らず自宅で介護してほしい
- 2 訪問介護等の在宅サービスを利用しながら自宅で介護してほしい
- 3 介護老人福祉施設等の入所施設で介護を受けたい
- 4 わからない
- 5 その他 ()

主に誰に介護してほしいですか。

- 1 配偶者に介護してほしい
- 2 子(女性)に介護してほしい
- 3 子(男性)に介護してほしい
- 4 子の配偶者(女性)に介護してほしい
- 5 子の配偶者(男性)に介護してほしい
- 6 自宅では介護してほしくない
- 7 わからない
- 8 その他 ()

◇男女の人権についてお伺いします。

問28 あなたは、これまでに次のような被害を受けたことがありますか。(○は項目ごとに1つ)

	受けたことがある		受けたことは ない	わからない
	相談した	相談しなかった		
①セクシュアル・ハラスメント (セクハラ) ※1	1	2	3	4
②パワーハラスメント (パワハラ) ※2	1	2	3	4
③ドメスティック・バイオレンス (DV) ※3	1	2	3	4
④ストーカー ※4	1	2	3	4

※1 セクシュアル・ハラスメント

相手の意に反して不快や不安な状態に追い込む性的な行為や言葉のこと。

※2 パワーハラスメント

職務上の地位や人間関係などの職場内の優位性を利用して、業務の適切な範囲を超えて無理難題を強要したり、精神的・身体的苦痛を与えること。または、職場環境を悪化させること。

※3 ドメスティック・バイオレンス

夫婦・恋人・パートナーからの暴力。「暴力」とは、なぐる、けるといった身体的暴力だけでなく、大声でどなるなどの精神的・性的・経済的な暴力や社会的隔離等も含まれます。

※4 ストーカー

同一の者に対しきまとい等を繰り返して行うこと。

問29 問28で①～④のいずれかに「2」と回答した方に伺います。

相談しなかった理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

<p>1 どこに相談したらよいかわからなかった</p> <p>2 身近に相談できる人がいなかった</p> <p>3 相談しても無駄だと思った</p> <p>4 相談したことが分かったと仕返しをされと思った</p> <p>5 相談することで自分が不快な思いをすと思った</p> <p>6 自分さえ我慢すれば、何とかやっていたと思った</p> <p>7 恥ずかしかった</p> <p>8 相談して他人を巻き込むのが嫌だった</p> <p>9 相談するほどのことではないと思った</p> <p>10 「誰にも言うな」と脅された</p> <p>11 そのことについて思い出したくなかった</p> <p>12 その他(具体的に：)</p>

問30 あなたや身近な人がセクハラやDVを受けたときの相談窓口について、次にあげるものの中で知っているものはありますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 警察
- 2 福島県男女共生センター
- 3 福島県女性のための相談支援センター
- 4 福島県保健福祉事務所
- 5 法務局・人権擁護委員
- 6 役場（福祉係・民生委員）
- 7 弁護士
- 8 医師等医療機関
- 9 NPO等の活動団体
- 10 一つも知らない

◇男女共同参画についてお伺いします。

問31 男女共同参画に関する次の言葉について、どの程度知っていますか。(○は項目ごとに1つ)

	内容まで 知っている	聞いたこと がある	今回の調査で 初めて聞いた
① 男女共同参画社会	1	2	3
② 男女共同参画社会基本法	1	2	3
③ 男女雇用機会均等法	1	2	3
④ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	1	2	3
⑤ ジェンダー（社会的性別）	1	2	3
⑥ エンパワーメント（力を付けること）	1	2	3
⑦ ダイバーシティ（多様性）	1	2	3
⑧ 下郷町男女共同参画プラン （計画期間：平成22年～平成32年）	1	2	3

問32 下郷町の男女共同参画の施策はどの程度進んでいると思いますか。(○は項目ごとに1つ)

	進 ん で い る	ま ま ま ま 進 ん で い る	ど う し ら も い え な い	あ ま り 進 ん で い な い	全 く 進 ん で い な い	わ か ら な い
①男女共同参画社会についての広報活動	1	2	3	4	5	6
②家庭における男女共同参画に対する啓発活動	1	2	3	4	5	6
③学校教育における男女共同参画に対する啓発活動	1	2	3	4	5	6
④職場における男女共同参画に対する啓発活動	1	2	3	4	5	6
⑤男女の人権を尊重した社会づくりの啓発活動	1	2	3	4	5	6
⑥健康に関する啓発活動・健康教室・健康相談・各種健康診断・検診	1	2	3	4	5	6
⑦うつ病等の予防など、こころの病気についての情報提供や意識啓発	1	2	3	4	5	6
⑧意思決定の過程における女性の参画促進、協働によるまちづくり	1	2	3	4	5	6
⑨女性の生きがいづくりにつながる講座や研修等の機会の充実	1	2	3	4	5	6
⑩町主催の講演会や講座等での託児所の確保等	1	2	3	4	5	6
⑪女性リーダーや女性グループ育成を図るための研修会の支援	1	2	3	4	5	6
⑫通常保育の充実・一時保育・児童クラブ・放課後子ども教室の充実	1	2	3	4	5	6
⑬男性の家事・育児・介護を促進するためのセミナー等の開催	1	2	3	4	5	6
⑭企業への育児・介護休暇制度の促進	1	2	3	4	5	6
⑮自治会や地区公民館など地域を基盤に活動している団体への支援	1	2	3	4	5	6
⑯互助機能(地域が持つ教育、子育て、防犯など)等地域の自発的取り組みの推進	1	2	3	4	5	6
⑰地域における「伝統文化(行事)」の保存・継承の推進	1	2	3	4	5	6
⑱女性や高齢者が主役となり活躍できる場づくりの支援	1	2	3	4	5	6

問33 問32の施策の中で男女共同参画を進めるために、下郷町は今後どの分野に力を入れたらよいと思いますか。(〇は5つまで)

1	男女共同参画社会についての広報活動
2	家庭における男女共同参画に対する啓発活動
3	学校教育における男女共同参画に対する啓発活動
4	職場における男女共同参画に対する啓発活動
5	男女の人権を尊重した社会づくりの啓発活動
6	健康に関する啓発活動・健康教室・健康相談・各種健康診断・検診
7	うつ病等の予防など、こころの病気についての情報提供や意識啓発
8	意思決定の過程における女性の参画促進、協働によるまちづくり
9	女性の生きがいづくりにつながる講座や研修等の機会の充実
10	町主催の講演会や講座等での託児所の確保等
11	女性リーダーや女性グループ育成を図るための研修会の支援
12	通常保育の充実・一時保育・児童クラブ・放課後子ども教室の充実
13	男性の家事・育児・介護を促進するためのセミナー等の開催
14	企業への育児・介護休暇制度の促進
15	自治会や地区公民館など地域を基盤に活動している団体への支援
16	互助機能(地域が持つ教育、子育て、防犯など)等地域の自発的取り組みの推進
17	地域における「伝統文化(行事)」の保存・継承の推進
18	女性や高齢者が主役となり活躍できる場づくりの支援
19	特に必要なことはない
20	わからない
21	その他(具体的に：)

◇男女共同参画についてのご意見やご要望などがありましたら、ご記入ください。

以上でアンケートは終わりです。

ご協力ありがとうございました。